



第十一地區委員 副議長
勳八等 安村 虎吉君
出生地 神奈川県
生年月 明治十四年四月十七日
現住所 横浜市大岡町
三百四十八番地
職業 三等郵便局長

君は柏木和十郎氏の息、明治十四年四月十七日神奈川県藤澤村に生れ、長じて安村長次郎氏の養子たり。夙に明治大學法科に學ぶ、性豪宕磊落敢行果斷の人なり、明治三十七年日露の國交斷絶するや、從軍して遼東半島に或は滿洲の野に善戦すること一年有半、功に依り勳八等に叙せらる。

大正二年十月相模電氣株式會社創立事務所に入り主任たり、大に其才腕を發揮す、君が徹實直なる秉性は會社の基礎をして益々堅實ならしめたり。後大正九年三月横浜大岡町郵便局長に任命せられ、爾來局長たり其間銳意事務の刷新と能率の向上に努力する所尠からず、大に成績を擡ぐ、之れ君が敢行果斷且つ事務的才腕の致す所にして横浜逓信事務界に於て活手腕の人として名を博する所以なり。宜なる哉、横浜三等局長會の幹事に擧げらるゝこと數回、現今同會副會長の要職にあり。

殊に彼の大震災後復興横浜逓信界に於て活躍著大なるものあり。大方の尊信を修めつゝあり。潰滅閉塞なりし世界が如何に其敏捷なる逓信事務に依つて活動光明の世界を恢復するを最大緊要の急務となしたるか、その間此等の奮闘身が如何に一般社會の復興的氣運に資する所甚大なりしか、蓋し思半に過ぐるものあらむ。而かも君は單に逓信界のみならず、復興の横浜に獻身努力して、誠心誠意その隆昌に力を致し、大岡町衛生組合長として、將又青年團評議員として殆んど寢食を忘れて東奔西走す、又國勢調査員、失業調査員の兩員として努力する等、凡そ公益の爲めには盡さざる無く更に又土地區劃整理委員に擧げられ、次で副議長の席に推される之君が人望家たる所以にして、復興途上最も其人を得たるものと云ふべし。

君は酒を嗜み禪學に親む、家庭にはゆき子夫人、長男和雄君、長女善代子嬢、次男弘君ありて、恒に春風飄蕩たるものあり、殊に和雄君は縣立横浜第三中學校四年生に在つて、秀才の評高く稀れに見る文字に達せらるゝと聞く、果せる哉同校應援歌は同君の作りしものなりと。



第十一地區委員
平戸 春吉君
出生地 神奈川県
生年月 慶應三年一月二十四日
現住所 横浜市大岡町
三百四十八番地
職業 地主

君は慶應三年一月二十四日相州鎌倉郡永野村に生れ父は織茂熊造氏君は其の二男也資性濃厚篤實公共的精神に富み各種公職を帯び誠實を盡し同地の名望家たり。

明治八年齡九歳の時當時神奈川縣々會議長たる久良岐郡大岡村平戸清八氏の養子となり大岡小學校を卒業其後同校に教鞭を執る年餘明治十五年漢學の泰斗小笠原東陽氏の門に入り修業三年養父の期望負き難く退學養父平戸清八氏長女カメ子氏と結婚中島屋雜貨店を開業す君時に齡二十一歳君が斷然意を翻し商界の人となる其抱負を果ふべし君は篤實誠意の人たると共に物に辭して己を屈せず邁進果斷専心顧客の信望を集め益々家運の隆昌を爭り遂に郡内屈指の商店となる又偶然に非るなり而も君感ずる所あり明治四十五年親戚某に其の店を譲り自己の天職を抛ち土地發展の爲通信機關の普及を爭り時の逓信管理局長を訪問し同町に三等郵便局設置の急を説き一方久良岐郡長北野右一氏等の後援を求め東奔西走遂に其の初志を貫徹し大正元年六月大岡町郵便局長を拜命す以後七年間局長の職にあり忠良其職を盡す君退局に當り時の逓信大臣野田即太郎氏は氏の在職中の功を多し同氏獨特の蘭畫を寄贈せられたり實に氏の公共的精神美と其の誠實とは眞に此所に現はる。

其後大正七年横浜市内に高等工業學校設置の決定を耳にし好期逸すべからずとし先輩平戸久治郎氏に資り大々的運動を試み右敷地を大岡町内字久能下に選定し知事有吉忠一氏を訪ひ最好候補地なるを建議し各地主間を遊説晝夜奮闘努力の結果遂に其案志を貫徹す今大岡町に高等工業學校あるは同氏盡力の賜なる能く衆人の知る所也君尙國勢調査失業統計調査委員に推され又町内衛生組長を歴任七年現に第三方面委員として震災後の復興に盡瘁活動せらる。

君不幸にして大正十二年大震災に遇ひ家屋を燒失し家族を失はる痛惜に堪へず而も益々奮闘努力今又區劃整理委員に推され汝々努身せらる君の如きは稀に見る實に篤行家の集積なり。

第十一地區委員

大谷 丑太郎君

出生地 横濱市
生年月 明治二十二年三月二十三日
現住所 横濱市蒔田町二百十二番地
職業 百貨店



人口過剰に悩む日本は年々七十萬の人口増加を見、食糧生産問題、延いては社會問題を醸成する事は當然の理である。あらゆる方面に停頓状態行き詰りを見つけ、あるは、事實である、抑々その招來する所は何によつて打開するを得るであらう、曰く産業立國、工業立國、曰く何と要路者は叫ぶ、また海外發展を高唱する者あり、議論紛々、大谷丑太郎君は横濱市大岡町に生れ、當地舊農家の出で、二十一歳にして、大空あり、日本の人口問題を考慮し、天外萬里、單身、南洋馬米、シヤムを實地踏査すること三年、雄心勃勃々、君は情熱の人にして、些の私心なく、極めて豪放細心、その殖民方面、産業工業方面を研究し、歸國、參考資料として、百貨店を開き、海外と通商す。

君は南洋貿易、殖民政策、産業方面に含蓄を有し、談論風發言に性男兒である、多年の宿望は胸に燃え、元氣旺盛、斯道の爲に健闘努力しつゝその百貨店、特種の經營に手腕を揮ひ商況愈々繁昌、顧客益々殺倒し、人氣盛なものである。

君は任侠に富み、公共團體の爲に奔走し家業を忘れることもある、現に蒔田青年會は君の斡旋により目出度く創立し、爾來幹事となり百般の問題を處理し、善導してゐる。

蒔田睦會會長として、地方自治の發展に資すること甚大、大に徳とされ稱揚されてゐるのは君の公共的精神の豊饒として仰ぐ、實に人間の美はしき極みである。

君は三男を譽ぐ、萬事厳格にして、温容、和氣藹々として談笑する、老父龍之助氏に仕え孝悌にたるるなく人の模範として仰ぐ、實に人間の美はしき極みである。

第十一地區委員

桐ヶ谷 辰次郎君

出生地 横濱市
生年月 明治十三年三月二日
現住所 横濱市大岡町大橋詰二百九番地
職業 精米業、地主
千代田火災代理店



君は明治十三年三月二日、桐ヶ谷金次郎氏の息として呱呱の聲を揚げたり。

尊父金次郎氏は最も嚴格にして高潔なりし人にして當地屈指の名望家として各方面より尊敬を集めたる人なり若宮八幡宮を合祀する際には氏の力殊に大なりしと云ふ。家は代々農を以つて業とし、廣大なる地を有して聲名あり。

大正十年農を廢し、十二年より精米業を開きて今日に及ぶ。

君は大正十三年家を繼ぎて、専ら家運の興隆に勵み、殊に謙にはじめたりし精米業を替して碎身し、家業の基礎を造るべく寢食を忘れて吃々努力を續けたり。而も君の大膽にして細心なる精力的活動は遂に著く功績を揚げ、既に今日の如き確乎たる盛運を致すを得たり。

君は一面また公職に推されてよく心を町治の向上に盡して名あり、國勢調査員として擧げられ、衛生組合委員として擧げらるゝ等を見ても君の人望家なるを知るべし。なほ、小學校後援會幹事として教育的施設の改善と發展とに力を用ふる等、君が人望の人にして又家業に働いて吃々たるのみならず、公共一般に意を傾けて勞を盡さざる奇特の士なる所以なり。而して君の長息金雄君は本校中學の出身にして、大岡町青年團の會計及び庶務に務めて青年團の發展に眞摯指導するところ多く、今聞風に高し。特に震災當時は寢食を廢して活躍を續け、その功績を擧げたること甚大にして爲めに木柵を授けられて、その功を彰せられたり。

父子共に公共精神に富みて、一身を全せず社會に盡して倦ざる、更に奇特と云ふべきなり。君が今度推されて第十一地區整理委員となる蓋し衆望の自ら歸する所偶然に非ざるなり。君は趣味として旅行を好む。家庭には令聞なみ子夫人あり長男金雄君の外に、次男安正、三男三郎、四男正三、五男大次郎、六男伍一、七男只七、八男久藏の諸君あり、男子のみ八人といふ種なる子福者なり。諸君何れも元氣俊秀にして將來を期待さる。



第十一地區委員

横山清兵衛君

出生地 横濱市
生年月 明治八年十一月三日
現住所 横濱市大同町釜田
職業 洋品店

君は明治八年十一月三日、當地に於て横山貞右衛門氏の長男として呱呱の聲を挙げたり。

横山家は寛永年間以来の舊家にして代々農業を営みて知られ、土地の名望家として夙にその名聞れたりといふ而して貞右衛門氏の時代に至り、農業を廢し新に機織商を始めたり。従来農を営み廣大な地を有し、舊家として、名望家として聞えたる家門なるを以て、また新たる業も忽ちにして盛隆を致し、家道益々榮えたり。

君は明治四十二年、分家して當地に移り、獨立歩して此處に新しく洋品店を開きたり。君はその意氣壯にして事を起すに果敢なり。即ち斷乎として新案を始め一途邁進するところ、君の健闘的精神に非ずむばならず。而も君は最も着實温健の人なり。徒らに誇大を街はず、虚名虚飾に因はれず、たゞ汝々として己の最初目的と爲したる洋品商に勵みたり。正直にして着實、而も内に壯なる意氣を藏して、君は漸くその家道を堅くしたり。以て今日の不抜の地位を克得たる所以なりとす。君の今日の大を致すまた偶然に非ずと云ふべし。なほ君は大正十一年帝國公債株式會社の代理店となり。大に公債株式界に貢獻するところあり、地方の人々に多大の便宜を及ぼせり。これまた君の着實なる性格の自ら堅固なる名譽を致せるなり。大正十四年之を辭し、今や専ら家業に務めて汝々たれども、而も君は平常町治の刷新と興隆とに念を懸くること深く、人々また君の爲人ならびに公共的熱心を望み、今度舉げられて第十一地區々劃整理委員に推されたり。茲しまた君の徳の致すところなり。君が町治に熱心なるのみならず、君の長息の新七君は青年團幹事の任に在り、青年の士氣的向上及團體的訓練の善美とを期し、専ら盡瘁して修ますといふ。君の一家をあげて公に力を致す出精は奇特といふべきなり。

君は深く禪宗を信仰するといふ。家庭には夫人の子、長男新七君、次男要三君、長女よし子嬢ありて、春風の如き和樂あり。



第十一地區委員

動七等 神山熊太郎君

出生地 埼玉縣
生年月 明治七年三月二十日
現住所 横濱市蒔田町
職業 地主、家主、著述業

越後唯一の舊家にして遠く祖先是藤堂家の家臣、君は母方の里埼玉に呱呱の聲を挙げ。嚴文謙司氏は謙嚴の譽高き人にして、君は幼少より嚴格なる教養を受けた。明治三十六年法政大學を優秀の成績で卒業し、湖山と號して筆墨の文章をよくしその著書數種に及んである。日露戦役に出陣し殊勳を立て、勳七等を授けられ、明治四十三年には横濱製箱株式會社に専務取締役として就任、爾來大正三年迄その重責を完ふし會社の興隆一に君の力に俟つところ大である。

その後君は養鶏事業に没頭し、市外に大養鶏場を設けて大々的にやつてゐるが、その研究の粹を始めて得意の文章を揮ひ、大正八年には「愛玩養鶏の作り方」といふ一書を公にしてゐる。養鶏家の好伴侶として博く愛讀せらる。君は元來趣味性豊富の人にして、養鶏事業の外に書畫にも堪能の技を有し、またその鑑識眼も月並ではないうさうである。餘技としてはまた剣道を好み所謂文武兩道に明るい近代珍しい人格者なのである。

公共方面では嘗て國勢調査員として第一回に活動した事もあり、衛生組合長としてその方面に盡力した事もある。更には在地軍人分會長として、大いに青年の志氣を鼓舞した時代もあつたが最近區劃整理委員に推薦せられ、日夜その計畫に肝膽を砕きつゝある。君の如き博學の士にして趣味性豊かなる人格者が、然も熱心に事に當面されるに於ては必ずや見るべき功績があることであらう。

君は令聞の譽高き佳人はる子に夫人に持ち混かき愛の生活を高調し、家庭的にも至つて恵まれた人である。夫人はまた文學を解し音楽、手藝通くとして可ならざるなき新時代の背景に立つ人で、社交界の表面にこころ立たないが随分種々な婦人團體にも關係して、その地位を認められてゐる。唯惜むらくは同棲歳既に及しうして子寶を擧げないことであらう。



第十一地區委員

高橋長治君

出生地 横濱市

生年月 明治三十年五月二十一日

現住所 横濱市蒔田町九十六番地

職業地 主

君は明治三十年五月二十一日、當地に於て呱呱の聲を揚げたり。

當家は屈指の舊家にして、夙に當地に於てその家名聞ゆ。當代長治君は十一代目に當り。曾祖父林藏氏、祖父金藏氏等何れも知名にして、殊に先代勘藏氏の名顯はれたり。

勘藏氏は市會議員を始めとしてあらゆる公職に推されたり。また極に見る公共的精神に富み、一身を捧げて東奔西走し町治の向上發展と相互の親睦協和とに盡瘁し、特に義氣的奉仕に力を致し、町内一般より信望さるゝこと篤く、各方面より恩人として畏敬さるゝ所深かりき。今日尙ほ勘藏氏の恩を多として、徳を稱するもの多し。

長治君はその勘藏氏の長子にして、幼時より俊敏の名あり、大正八年慶應大學商科専門部を卒業し、直ちにキリンビール株式會社に入れり。俊敏なる才腕は漸く業界に秀れて信望の篤きを愈々加へたり。大正十二年父君勘藏氏の跡を繼ぎて、十三年に至りキリンビール株式會社を辭したり。以後専ら地主として生活をつゞく。

君また俊敏の才なると共に公共的義氣を負ひ、勘藏氏の跡を繼ぎて各種の公共的任務に活動して令聞高し。殊に國勢調査、人口調査員に推されて盡瘁努力し、また大同小學校後援會常務理事として奮闘する所多し。

君は青年團の指導向上に力を用ひたること篤く、前蒔田町青年會副會長としてその職にありし時、殆ど獻身して日夜活躍し團員の協力と士氣の振興とに意を注げり。今や横濱市の復興に當り區副整理委員とし新進の學識と俊敏の手腕を以て此の難事業に處して、よく實績を擧げてゐる。

君は勇邁豪宕にして常に活動的精神に燃えたり。柔道初段の猛者なりと云ふ。而もこの活動的豪宕さの一面、また心境の悠々として沈めるあり。即ち平生君は書畫骨董の類を愛蔵鑑賞すること深し。君の人格を寫眞するに足るべし。

家庭は殊に温くして、令閨照子夫人は貞淑を以て聞ゆ。夫人との間に長女王枝嬢、長男長晴君あり。

第十一地區委員

上杉龜之助君

出生地 神奈川縣

生年月 明治二十五年八月三日

現住所 横濱市蒔田町字六反日

職業 米穀商(相模屋)

君は神奈川縣鎌倉郡湘谷の郷大字宮澤の人にして上杉貞助氏次男、明治二十五年八月三日を以て呱呱の聲を擧げたる少壯有爲の紳士なり。

家は宮澤に於ける舊家にして既に通稱五代の統を有し、累代農を以て立ちしも君は齡二十歳にして書畫の志を抱き、渡米を目的として横濱に出で、番代町神谷氏に就て羽二重商を見習ふ。

後大正二年に至り、辭して叔母君なる荻野米穀商店に入り、各所に轉じて同じく米穀商經營を學び、大正六年現在の地に開業す。

君の業に當るや、拮据經營努力奮闘、遂に今日の大を成さしむるの素因を成す。從つて家運益々大に、大正十三年横濱米穀商同業組合評議員に推されて更に斯界の向上發展の爲にも傾倒し、功勞甚だ大なり。

君はまた社會公共の爲に傾倒する事厚く、蒔田町青年會社會部長に推されて大正十年來社會事業に盡し、横濱同志會評議員としては自治の向上の爲に施設斡旋す。

また市の復興の進捗に志して先づ蒔田町復讐會を興して其幹事となる。而して今次横濱港部復興の大業興るに及んでは第十一地區より推されて土地區劃整理委員の任に就き、一意復興の大略を邁進して功績顯著、措置公平無私にして事業の爲に新銳の力を注ぎ其進捗を助成す。定に復興途上の横濱市の爲に君の如き熱誠なる人を得たるは事業に於ける最善の力なりと謂はざるべからず。

君はまた育英の事業にも心を用ひ、南太田小學校兒童獎勵會委員として給振す。

不動産を信仰する事亦厚きは篤厚の信念を以て世に處する君の性格の一端を顯現するものなり。

趣味としては最も園藝を好み、技術るべからざるものありとか。

家庭にはは左子夫人あり、夫人は難下愛甲郡南毛利村字愛甲石井高次氏長女にして君に仕へて内助の功大なり。

第十一地區委員

勳八等 森 宗五郎君

出生地 横濱市
生年月 明治九年八月十七日
現住所 横濱市蒔田町
八百九十八番地
職業 地主

君は明治九年八月十七日、春源太郎氏の息として當地に生る。

家は當地の舊家にして代々農業を營みたり、君は明治四十年業を繼ぐ。

舊家に生れ、農業として廣大な田畑を有したる君は、汝々として家業を守り、只管その業に勵みたり。益々家道は堅實を致し、土地に在つて重きを爲す。資性素質にして温篤なる君は、また他を顧みずして専ら誠實なる歩を續けたり。即ち君の家系に流るゝ傳統的精神は夙に敦厚着實なる性格の人たらしめたりと言ふを得べし。

然して一方君は事に臨みて沈着剛毅、身を挺して所信の貫徹に力むる勇氣果敢の人なり。先に明治三十七八年日露の役に出征し、滿洲の野に轉戦してその功をもつて勳八等に叙せられたり。君が氣節に富み、敦厚の中に毅然たるものをも有するは即ち君が軍人精神に外ならずと云ふべし。かの大變災當時、己を捨てて活躍し公共の爲め粉骨盡心し甚大なる功績を揚げ、市長より賞状を授けられたるが如き、君の人格の高潔にして志士的精神の篤きを知るべし。

君はまた町の發展興隆を念とし、かの共進橋通りを開通せしむるため同志と謀つて奔走し、遂に今日の如き繁榮を來たさしめたるなり。その功は君に負ふところ大にして君を徳として稱する聲の高きは蓋し當然なり。大正五年に家業の農を廢し、其後専ら地主として平和なる生活を爲すに及びて君は心を町治に用ひること深く、國勢調査、人口調査員として働き、また衛生組合長に推されて六年間その任にあり鋭意衛生的思想の發達と衛生施設の改善を圖つて噴々の名をあげたり。君の公共的精神に篤きと共に自ら一般の人心を集り、今度また第十一地區區制整理委員に推され横濱市の再建を期す。蓋し誠實温厚なる君は最も徳望の人と云ふべし。家庭には夫人つな子あり、長男茂君は日下慶應大學に在學中の秀才なり。



第十一地區委員

加藤 進君

出生地 石川縣
生年月 明治十三年六月二十三日
現住所 横濱市蒔田町
四百六十八番地
職業 醫師

君は明治十三年六月二十三日、石川縣鳳至郡宇出津町に加藤常彦氏の息として呱呱の聲を揚ぐ。家は石川縣の舊家にして代々神職にして前田侯の藩士たり。

君は剛毅不屈、あらゆる艱苦に耐へて力戰奮闘したる努力家なり。明治二十七年、法律を志して上京し和佛法律學校に入れり。此處に學ぶこと十ヶ月、感ずるところあつて退校す。此間君は其に辛酸を嘗めたり。而して不屈の精神を有する君は決然として己の進むべき方向を醫界に求め、明治三十年五月刀圭界の權威磯矢先生に就きて専ら實地研究を積み、刻苦努力二年にして明治三十二年前期試験に合格せり。翌三十三年には正規の學業を受くべく慈惠會醫學校に入学し、重ねて研鑽し漸く君の年來の志望は達成せられむとす。而も事情のまた止むを得ざるありて三十五年には退校の餘儀なきに至れり。

性來剛毅にして、困苦と力闘して少しも屈せざる勇敢邁進の士なる君は、然れども此處に己の志を捨つるが如き弱者に非ざりしなり。即ちまた一層の忍苦を關して四十五年には後期試験に合格せり。大いで大正三年實地試験に合格す。志を決して以來十幾年、其に苦學力行し他日の達成を期して一途精進せるその健闘振りは特に世上の模範たらすむば非ず、實に君は立志傳中の人と云ふべきなり。かくて大正三年有志の號めにより現在に開業するに至れり。その骨め盡せる辛酸苦味は君を最も尊敬すべき人格者となし、信望を一身に宛めて降々たる盛名を忽にして招致せり。君は横濱醫師會代議員に擧げられ、大正十二年赤十字病院に勤務し、また防疫醫を務む。大正五年、大同小學校囑託醫となり、衛生組合委員に推され蒔田衛生組合囑託顧問たり。かくて漸く君はその抱負を社會的專業に發揮す。のみならず氏子總代、國勢調査、人口調査の委員に推さる。君の人心が如何に持きかを知るべし。また區制整理委員に推され横濱市の再建に努力す誠に通任を得たりと云ふべし。

家庭に合間たる子夫人あり。長男正君は慶應普通部に在學、次男健彦君は藤立中學校に在學す、三男壽君あり。



第十一地區委員
森 市 作 君

出生地 横 濱 市
生年月 明治十七年十月十七日
現住所 百横 濱 市 蔦 田 町
職業地 主

武士道は人格の神髄を生み、禮儀は精神修養の根原であり、又人世をして、發達を左右する者である事は、今更
語るを俟つまでもない處であり、近世運動の發達は人類に無限の體育を増進せしめ、又近時著しく勃興せる各種
の運動競技は文化人をして體質を一變せしむ、而かも如何なる科學も運動も遠く及ばざるは、單り古代の武士道
の力あるのみ。

君の嚴父市左衛門氏は舊來豐後守主水の末裔にして先祖十五代目の由緒ある舊家なり、君は其の長男に生る、
徳川三百年の偉業も遂に維新の大變革に際會し、さしも名門たりし君の一家も亦世に野に下るの餘儀なきに至る
や十四代祖父市左衛門氏は自由黨の主幹となりて、常に當地の開拓に務めたりしをもつて、終に明治四十二年
横濱市に編入せられて縣會議員となる事四期の長期間に及び、其の政治的手腕の凡ならざるは時人をして又驚嘆
せしめたり、君は又縣立第一中學校の出身にして、大正二年に家を相續し父の後を繼ぐ、横濱指折の大地主であ
る君は財産を持て甘するにあらずと常に大志を抱き大正七年一月横濱市會議員に當選す。一面には文武的技能の
人にして大正三年九月横濱鐵友會なる物を創立し、もつて、會長に自ら任じ廣大なる射撃場あり、又横濱養技館、
内村柔道道場の顧問、相談役たりし、大正十二年九月一日大震災當時町内衛生組合長として其の重任を全し得た
るは尤より君の衛生思想の發露に外ならずと雖も、君は又一面には政治的手腕の凡ならざるものあるは今日の大
成功をなすの一基因たらんば、あるべからず、即ち寺院氏子總代となり國勢調査員となり、其功績擧げて數ふ
べからず、茲に又區劃整理委員に推され、其の難事業の遂行に當るは一意奉公至誠の發露として市民の推戴する
處である。君は短身強軀なる温容慈眼の人なれど意志強固今尙柔道二段の猛者にして又弓術之有段者君の心奉を
躍へる獵弓術あり、全日本射擊大會選手の記録保持者なり、又君は子福者にして長男正勝君次男靜一、中學生校
三男謙吾君四男治君、五男英雄君、長女八重子嬢の五男一女にして一家圓滿なり、令室はつ子は内助の譽れ高
き賢夫人なり。



第十一地區委員

荒井仲太郎君

出生地 横 濱 市
生年月 明治八年九月十五日
現住所 百横 濱 市 大 岡 町 大 橋 詰
職業地 主

人格は神髄を生み勵勉は富の根原とも云ふべく經濟の發達を左右するものなる事は敢て進化論の後言を俟つま
でもない處であり近世經濟の發達は人類無限の福祉を増進せしめ又近時著しく勃興せる各種の銀行會社は經濟界
をして一變せしむ、而かも如何なる事業も遂に其如何ともする能はざるは人世にして單り之れを左右し得るは資
本家の力あるのみ。

君の嚴父金五郎氏も名望のはまれ高くして君は其の長男に生れ徳川三百年の偉業の大變革に際會した父の後よ
く助け、年僅か二十五歳にして父金五郎氏より僅少なる資本を譲り受け切瑛努力し以て機を見るに敏なる君は農
の傍に種々なる事業を起し英才偉才なる君の手腕は時人をして驚嘆せしめたり其れと相俟つて奮勵なる君は慈善
心も深くして社會に遇する理解は實に懇切丁寧にして三歳の童兒も此れを慕ふと云ふは、君の權威をして厚びく
所以なり、今日遂に大成功を贏ち得たるは尤より君の技術君の才能の發露に外ならずと雖、君は又單なる經濟的
才能の人にあらずして一面に政治的手腕の凡ならざるものあるは今日の成功をなすの一基因たらんばある可か
らず、君は大正三年農を廢するや大岡町郵便局に勤務する事三年間、大正七年衛生組合長に推されるや其の重任
にある殆ど家業を顧みるに遑なかりし程で君は此間に於て良く重責を全うし、又國勢調査、人口調査員として盡
瘁し現在は衛生組合副組合長となり、大岡小學校後援會幹事となり、大正十三年十二月小作調停委員として横濱
地方裁判所より囑託せられ其の功績は擧げて數ふべからず、茲に又區劃整理委員に推され其の難事の遂行に當る
は一意奉公至誠の發露として市民の推戴する處である。

君は温容にして子福者なり、長男義太郎君、次男政吉君、三男島吉君、四男米藏君、五男勇君、長女しづ嬢
の、五男一女にして、長男義太郎君は現在青年團幹事として秀才又人の知る處である、令室きん子は内助の譽れ
高き賢夫人なり。



第十一地區委員

大谷菊次郎君

出生地 濱 市
生年月 明治十九年十月八日
現住所 濱 市 大岡町
職 業 和洋建築器具金物商

濱大岡町に隣れる弘明寺は元正天皇の御宇に佛鉢を發し、行基菩薩一刀三禮の觀世音を本尊佛と爲し國寶の一たり。開基以來一千二百年を経る古刹にして靈驗顯著、這般の大震火災に於ても依然たる堂塔及齋堂たる後廟を有す。境内の一隅大谷久藏君の石碑あり、實に斯人こそ我が大谷菊次郎君の祖父にして、生前義侠に富み奇行あり、濱濱の名物男たりし士なり。また福業を能くして門三四百を數へ、其子弟を受する事子の如かりしを敬慕せるもの、即ち弘明寺境内に記念碑を建て、其徳を頌せり。

斯の如きを以て其庭訓も亦偉大に、君の長兄金藏君は日清日露の役に奮勵を樹て、勳八等功七級に叙せられ、現在神奈川縣第二消防署六番組々頭にして、次兄忠藏君は同じく日露役の勇士、勳七等功六級に叙せらる。

君は大正九年分家して金物業を創始し、業務甚だ熾盛、克く今日を成す。

初め、専ら機械工業に志して濱濱製油會社、安部製油所に勤務して製油機械の改良に努め、其他復水器の改造澆出法による製油機械等の改造に努め、君の創案に得りて利益せられたるもの多大なるものあり。

會社を辭して後大正九年鐵工場を設けて建築用具、農具、等の改良に従ふ。即ち現在の業務たり。

君は傳統の血を享けて性甚だ俠氣に富み、大岡町青年團團長を経て本年團長となり猶ほ方面委員を市より委嘱され青年の指導に又社會事業に盡す事嚴君と同じ。

また大岡小學校後援會幹事としても育英の事に心を注ぎ、曾ては國勢調査員、人口調査員として勤長大なりき。今次金港復興の事業興るに及んで第十一地區土地區劃整理委員に擧げられ、至公至平の措置を講じて業甚だ大厚し。

君は趣味としては最も讀書を好んで常に自省修養の機を得つゝあり。

夫人榮子は君に仕へて内助の功厚く、母堂しま子乃白七十五歳の壽を保ちつゝ、令兄金藏君の家在り、君等之に仕へて孝養甚だ厚し。



第十一地區委員

加藤米太郎君

出生地 濱 市
生年月 明治元年十月十七日
現住所 濱 市 薛 田町
職 業 馬鈴薯玉葱問屋

君は明治元年十月十七日、當地濱濱に加藤新太郎氏の息として呱呱の聲を揚げたり。

君は資性濃厚にして事を爲すや勤勉、内に確固不拔の意氣を秉りて、屈折せず、若々として勉勵を續けたり。而してよく今日の盛隆なる家運を興し、なほ公共一般に盡心して身を獻ずるといふ奇特の士なり。

君は始め、濱濱市相生町一丁目なる山城屋に勤る、専ら馬鈴薯につき、その供給販賣法を研究したり。君まづ始めに馬鈴薯玉葱商界に身を延して活躍せんとし、爾來一途精進して他を顧みず、已を信じて堂々と力めたり。誠その意氣の壯なる罕とすべし。二十歳にして屋上町一丁目馬鈴薯玉葱問屋を開業するや堅實にして明敏なる君は若々乎たる地歩を築き上げたり。その間君が刻苦奮闘せるまた言を俟たず、一意専心志を決せる業に勵みて、百難萬苦を耐して精進せるその健闘的意氣は賞讃せざるべからざらんや。後五ヶ年を経て明治二十五年、南吉田町十二番地に山城屋の支店を設けらるゝやその支店々主となる。業は益々昌隆して盛運を致せるなり。蓋し君の奮闘は此に略々成功を致せりと云ふべきなり。

後、大正二年現地に移りて昔日の奮闘は充分なる地位を築き、家名益々聞ゆるに至れり。

君は、斯くの如くして馬鈴薯玉葱界に盡したるころ大にして、現に濱濱深土谷馬鈴薯玉葱問屋組合委員に推され、斯界に益々力を至せり。

君は温篤高潔なる人格の人にして、公共に心を用ひること深く、國勢調査、人口調査の委員に推されて活躍しまた衛生組合副組長として衛生施設の改善に努力して功多し。なほ南太田町小學校學務會理事として又教育の振興に盡すなど、幾多の公職に推され、専心之に献身して名あり。區整委員に推されしは業望の自ら歸する所と云ふべし。

家庭には夫人ちと子あり。長男は徳藏君といひ次男豊太郎君は謙備少尉にして會社に勤務、三男春雄君は神戸野崎支店々員、長女なつ子嬢は本店主加藤太郎氏に嫁す。

第十一地區委員

平本友七君

出生地 横濱市
生年月 慶應三年十月十三日
現住所 横濱市磯田町
七十六番地
職業 地主



君は慶應三年十月十三日、當地に於て平本岡吉氏の息として呱呱の聲を揚げたり。

平本家は當地の舊家にして五六百年も連続としてつゞきたる家柄なり。而して代々當地に農を營みて汝々として富財を蓄積し、今日に及べり。

君は明治十七年、業を繼ぎ地主として今日平穩なる生活を續け居るも、君は生來公共的義氣に富み、殊に愛町精神に富めり。君は夙に町の繁榮と發展とに盡心し、大正二年同志と共に協力して謀り、磯田町の中心を爲し町の發展のために最も重要な地位にある所の共進橋通に力を用ひ、遂に漸くその奮闘努力により今日の盛榮を致したるものなり。實に君の功は顯著にして、延いて同町繁榮に甚大なる影響を與へたるものなり。宜なり、今日なほ君等の徳を稱するもの多し。

君はなほ常に町治の親睦を圖つて盡力奔走すること篤く、殊に國勢調査員、人口調査員として盡したるころ多し、即ちまた君の義氣的公共心は各方面よりの衆望を負ふてゐる所以なりと云ふべし。即ち府會議員として前に推されて村政に參じて功を擧げ、また氏子總代として推され、神社と民間との中に在てよくその任を果し、共に信頼敬愛さるゝ所なり。なほ時田藝技検査取締の任にあつてよく職を督して懈まず。

君の如く義氣的公共的粉骨の人はまた罕なりと云ふべきで今度推されて第十一地區區劃整理委員たり。その奮闘は期して待つべきものなり。

家庭は和平にして夫人をせい子といひ、三男二女あり。長男藤吉君は陸軍少尉の軍籍にありし人にして現に東軍に奉職し情動を以つて稱せられ、才腕を以つて稱せらるゝ人物なり。次男宇三郎君また陸軍少尉にして、現在東神奈川の縣に奉職して令名あり。なほ三男を好治郎君といひ、長女とみ子嬢、次子はる子嬢あり。一門何れも繁榮し實に家庭美むべきなり。

第十一地區委員

平戸久治郎君

出生地 東京府
生年月 嘉永二年八月二十八日
現住所 横濱市大岡町二百七十二番地
職業 地主



人格は神韻を生み、産業の發達は文明利器の根原とも云ふべく其國國勢の向上であり發達を左右するものなる事決して過言ではないのである近來我日本の經濟界は日増しに苦難におち入り生活難より各種の爭議或は同盟罷業の勃發するは最も憂ふべき事なれども此れを争ふ上は遂に如何ともする能はるず唯これ善處する否とは資本家の力に俟つのみである。

君の嚴父乗助氏は當地に於ける舊家にして代々農業を營み居りしが、君は其の長男に生れ、徳川三百年の額業遂に維新の大變革に際會し、さしも名聞高かりし君の一家も亦茲に於て大打撃を受けたので君は二十四歳の春をもつて父君の後を相續し、挽回の大志を抱き克苦勵精の効空からすさらに若冠下大岡村の村會議員となる、身邊を忘れて世の爲に盡し後にはもつて戸長となり次で聯合戸長となり各戸を訪問するや慈眼をもつて家族をよくなぐさめ又懇切叮嚀なる事村民をして衆人と尊敬される事と時人をしてよく知る處である。又村長となる事八年の長きに及び町會議員となり氏子總代となる事長年間に渡り、君の手腕は實に非凡なるものにて時の町民をして又驚嘆せしめたりしは、君の才能の發露に外ならずと雖君は單なる一智人にあらずして一面には大政治的の持主にありしは、今日の成功をなすの一基因たらずんばある可からず此處に於て所得税調査委員となり、當時歐洲大戦の影響を受けた我が國經濟界の大多忙に際し、其重任にある君は殆ど家業を顧みるに逸なかりしに君は此間のに於て良く其の重責を全うしたりし其功績は擧げて數ふべからず茲に又區劃整理委員に推され、其の難事業の遂行に當るは一貫奉公至誠の發露として市民の推獎する處である。

君は老來體健として健かに、次男藤吉三男藤造四男宇吉五男藤吉六男孝一君の五人の愛子を持ち皆秀才にして四男宇吉君は横濱商業學校を首席で卒へ、父を助け又令室ふく子は内助の譽れ高き賢夫人なり。



第十一地區委員

荒井菊藏君

出生地 横濱市
生年月 明治二十一年三月二日
現住所 横濱市大岡町
大橋詰三十九番地
職業 農

辰蔵氏の長男で代目を継ぐ、代々農業に従事してきた。父辰蔵氏は七十一歳の高齢で永く病床に臥す、君はいとも孝心厚く懇ろに看病し、世間にその美談はしばしば傳えられて居り、表彰された事もある模範的人である。夫人つま子も貞淑温順の賢婦人で夫に好く仕へ慰の看病に好く侍つて、傍ら大勢の子供を撫育しつゝある。育藏君、茂君、とみ子嬢、あい子嬢、麻君、功君、の四男二女あり孰れも聰明の質である。

君は斯る間に處して克く家運の長久を圖り出で、は町政に參與し、大岡町青年團長としては青年の指導に熱中す。町の評判は至つて良く、最近町の青年達は君を推挙してその徳行を表彰した。横濱聯合青年團評議員の職務もあり、青年組合委員大岡小学校後援會幹事等如何に公共心に篤きかを知るものである。近時國民道徳は地を拂つて廢頽し、利欲に逐ひ名利に媚ひ恬として恥ぢざるの時代に於て、君の如き一點非難なき人格者は果して幾人あらう。

君今や區副整理委員に推擧され、上下を擧げての難事業に當面せられてゐる。清麗潔白の君には誠や好適任者として、その道に人材を得たものである。帝都復興の事業に屢々怪聞さへ傳はる今日、君の如きは當に一清涼劑としても、その存在に意義あらしめるであらう。君は別に系統の立ちたる教養を受けたのではないが、讀書の範圍可成り廣く、談博なる常識を以つてゐるは、深く敬服する所である。一度君に接した者は必らずその謙讓の美徳に親しみの情を起すべく、一度語ればその印象は去り難き、何人にも好印象を與へる人である。

君に特別の趣味嗜好とてないが、強いて擧ぐるならば讀書位のものであらう。父の看病に従ひ公共事業に専念する多忙の君は、寸暇さへあれば先哲の書を讀み、修養に資する事を唯一の樂しみとしてゐる。



第十一地區委員

伊藤太郎君

出生地 横濱市
生年月 明治九年八月二日
現住所 横濱市蒔田町
字榎木坪七百二十四番地
職業 染色工業株式会社取締役

伊藤太郎君は純横濱ッ兒なり先考重吉翁は三河岡崎の人、明治維新の混沌時代、風雲に乘じ横濱に來り、家運の基礎確立に努め、板垣退助氏が自由黨を組織するや幸先之に加盟し、自由民權の伸達に奔走馳驅し、神奈川縣支部の重鎮として牛耳を執り、政客として立つの外、又その自治に盡瘁し、町會議員、區會議員、或は亦會議員となり、郵黨の推擧頗る厚く、國士の風格を備へ志士を以つて稱せらる。

君また先考に酷似するものあり、夙に政治自治の間にその生命を捧げ、四十年一日の如く、而も自ら表面に立つを欲せず、政友會神奈川縣支部幹事として維新の裡に在り、常に出席進退公明正大にして、そのリीडグたるの觀あり、公職は一切辭しめたるも一度、區副整理の施行せらるゝや、その横濱繁榮の見地より衆人に推されて整理委員を快諾す、終始一貫、その大任を負ひ宵々研鑽、一見論を成す。偶々大正十五年市會議員選舉に際し、立候補を勸誘せらるゝも只區副整理事業に直往邁進し、他を顧るの餘裕なしと、固辭して之れを受けず。君は漸く横濱商業學校出身に過ぎざるも形式に拘泥されず、その明晰なる頭腦を以つて、政治、經濟、法律及び文學を獨學し文字を論じ詩歌を作るの博學あり、また西有移山禪師に師事し禪學の造詣深く、偉大なる風格を備へ、悠々人生を遊覽す。

されば郵黨後援の爲に盡すこと多大、推されてその郡田五親會の會長となり、常に人心の離く所を誤らしめず。良く誘掖指導し、郵黨の興致するところとなる。

君はまた横濱中央銀行取締役、京濱硝子株式会社社長、長門鐵業株式会社監査役を歴任し現に横濱鐵道株式会社相談役たり、又且つて横濱日日新聞、參陽新報主宰たることあり、現に中央新聞横濱支局に關係し、實業界操縦界に雄飛してあり。夫人は梅子青山英和女學校出身の才媛にして閨秀の譽あり、嫡男重藏君壯年にして新進氣鋭の人士前途を囑望せらる。



第十一地區委員

桐ヶ谷 準藏君

出生地 横濱市
 生年月 明治二十年八月十日
 現住所 横濱市大橋二丁目
 職業 地主、創造師範(修武館)

君は明治二十年八月十日、桐ヶ谷源七氏の息として當地に生れたり。
 君より三代以前、四郎左衛門氏當地に米穀商を始め、其後家業として代々之を囃き、君もまたそれを受けて業とし、横濱米穀商同業組合評議員及動力使用者同業會評議員に推され、尙ほ米穀商組合の第十九部長に擧げられ専ら米穀商界の偉材として當地に重きを爲したり。

大震災後、君は斷然家業を廢し、修武館を開いて創造師範として數多の門弟を擁し、且つ縣立商工實習學校創造教師、早大横濱會創造教師、横濱キリスト教青年會創造教師に任ぜらる。

君は性豪毅磊落にして、義侠心に富むは人々の畏敬するところ也。私立小林中學出身にして少年時代より既に創造師範を以つて頭角を顯せり。特に大日本武徳會範士門泰正師範高弟なる山田義治氏及び大田金明氏に就きて修業し、北辰一刀流を究め、現在四段にして門弟三百を算し、盛名高し。門弟を指導激勵して獎勵すること篤く、依て益々門弟の君を慕ひて教を乞ひに參するもの日に加はると云ふ。

君は而して青年の士氣を鼓舞激勵し、情弱なる現代の氣風を一掃し、雄大豪毅の雄にしき士氣を振興せむと志すの念殊に深く、大正八年大同町青年會を創立し、まづその志を注ぎて尚武的氣風の發興に盡したり。推されて會長たり、震災當時までその任に在つて銳意努力を以つて指導し、漸く堅實にして剛毅なる士氣を發揮するに至れり。大同町青年會の今日あるは實に君に負ふところ最も多き所以なり。君はなほ今日横濱聯合青年團常務理事に任ぜられてあり、益々力を用ひて士氣の振興に盡しつゝあり蓋し君の如きは現代青年を指導する最適の人と云ふべし。なほ君は國勢調査員等にも擧げられて一般自治に活動するところ多く、今度推されて區劃整理の委員に擧げられしは、如何に君の人望家なるを知るべきなり。

君は旅行登山の趣味あり。家庭にはきん子夫人あり、長男正君は縣立商工實習學校に、次男貞治君は本校中學に在學中の秀才なり。なほ三男豊君、長女文子嬢あり。

第十二地區 横濱市施行

大正十三年十二月二十四日横濱土地區劃整理委員並ニ同補員ノ選舉ヲ行ヒテシ

土地區劃整理委員

- 八番 議長 箕輪 半藏(地)
- 三番 副議長 山中 敏 藝(權)
- 一番 新堀 佐太郎(地)
- 二番 岡 田 玄 三(權)
- 四番 石川 正七(地)
- 五番 山崎 己之藏(權)
- 六番 大久保 與右衛門(地)
- 七番 上 條 治(權)
- 九番 林 一 藏(權)
- 十番 佐 藤 豊 吉(地)
- 十一番 金子 喜代 藏(地)
- 十二番 山之井 善太郎(權)

土地區劃整理委員補員

- 土地所有者
- 川村 算藏 佐藤明治郎 四方田定吉 中村慶次郎 新井辰五郎
- 大野 留吉
- 借地権者
- 齋藤仙之助 宮崎卯三郎 石川健次郎 石塚山松 崎澤伊之助
- 田中新三郎

地區々域

北方町字竹ノ花ノ一部、同字上野ノ一部、同字西ノ谷ノ一部、本牧町字土家ノ一部、千代崎町一丁目ノ一部、同二丁目ノ一部、上野町ノ一部、根岸町字番用ノ一部、同字立野ノ一部、同字丸ノ一部、同字立野ノ一部、同字立野ノ一部、同字立野ノ一部

整理前後地積面積比較表

總面積	整理前		整理後	
	宅地	公共用地	宅地	公共用地
四三、二二八	三三、〇〇八	一〇、二二〇	二五、六一八	一七、五二〇
				〇、一九九

委員會經過ノ概要

- 一、大正十四年二月十日 第一回委員會開會議長副議長ノ選挙ヲ行ヒ委員會ノ席次ヲ定メ、委員會組織ノ要項ヲ審議シ、議事規則ヲ決議シ、更ニ第一號整理前土地面積決定期日ノ提案アリ審議ノ結果審議前積積ヲ三月十五日現在ト訂正出願ヲ三月五日限リト決定ス
- 一、同年七月三十五日 第二號換地位置決定ノ件ノ提案アリ之レヲ審議ス
- 一、同年八月一日 第二號案ノ審議ヲ爲シタリ

- 一、同年八月五日 第二號案ノ審議ヲ重ス
- 一、同年八月十三日 第二號案ニ付テ審議シテ決定セス
- 一、同年八月十七日 第二號案ニ付テ審議ヲ爲シタリ
- 一、同年八月二十一日 第二號案ニ付テ審議ヲ爲ス
- 一、同年九月二日 第二號案ニ付テ審議ヲ重ネタル結果其ノ一部ヲ決定シタリ
- 一、同年九月十六日 第二號案ニ付テ審議ス
- 一、同年九月二十二日 第二號案ニ付テ審議シタルモ決定シタルモノナシ
- 一、同年九月二十八日 第二號案ノ審議ヲ重ネ
- 一、同年十月三日 第二號案ニ付テ審議ヲ爲ス
- 一、同年十月八日 第二號案ニ付テ審議ス
- 一、同年十月十六日 第二號案ニ付テ審議ヲ重ネタル結果之レヲ決定可決ス
- 一、同年十一月二十一日 第三號整理前路線償還ニ各筆平均指數ノ件ノ提案アリ審議ノ結果其ノ一部ヲ決定ヲ見タリ
- 一、同年十一月二十六日 第三號案ニ付テ審議シタルモ決定シタル部分ナシ
- 一、同年十二月十一日 第二號案ニ付テ審議ヲ爲ス
- 一、大正十五年二月十二日 整理後路線償還指數ノ件ノ提案アリタルモ決定セス
- 一、同年二月十七日 第四號案ニ付テ審議ヲ遂ク
- 一、同年三月二十四日 第五號換地面積決定ノ件、第六號整理後土地各筆平均指數ノ件ノ提案アリ之レヲ審議ス
- 一、同年三月二十四日 第五號案、第六號案ヲ審議シタル結果第五號案ノ一部ヲ決定スルニ至ル
- 一、同年四月七日 第五號案、第六號案ニ付テ審議シタル結果、第五號案ノ一部ヲ決定シ、更ニ第七號換地位置一部變更ノ件ノ提案アリ審議シテ之レヲ決定ス
- 一、同年四月二十八日 第五號案、第六號案ニ付テ審議シタル結果其ノ一部ヲ決定ヲ見タリ
- 一、同年五月十七日 第五號案、第六號案ヲ審議シ其ノ一部ヲ決定ス
- 一、同年五月二十四日 第五號案、第六號案ヲ審議シ其ノ一部ヲ決定シタリ
- 一、同年六月三日 第五號案、第六號案ニ付テ審議シ其ノ一部ヲ決定ス
- 一、同年六月十四日 第五號案、第六號案ニ付テ審議シタル結果兩案共其ノ一部ヲ決定シ、更ニ第七號換地位置一部變更ノ件、第八號換地面積一部變更ノ件ノ提案アリ之レヲ審議シタル上兩案共決定ス
- 一、同年六月二十四日 第五號案、第六號案ニ付テ審議ヲ爲シタリ
- 一、同年七月十三日 第五號案、第六號案ニ付テ審議シタリ

第十二地區委員(議長)

箕輪半藏君

出生地 横 濱 市
 生年月 明治五年十一月 日
 現住所 横 濱 市 北 方 町
 五百五十五番地
 職業 會 社 重 役

素封の家は積善の家にあらずんば久しからずと謂へり。寔に背後に威武なく、権力なく、唯徳を以て人を御し得ればなり。富力の如きは必ずしも恃むに足らず。權力武力の如きもまた然り。恃む處はたゞ、仁徳の力のみ。而して此力は最大にして永遠なり。権貴の背景を有せずとも衆之を有せん事を惟ふや、權威も此志を善ふ能はざるなり。

我が箕輪半藏君の家は横濱に於ける素封家にして累代名望厚かりし舊家、君は箕輪三郎氏にして君は明治五年十一月を以て現地に呱呱の聲を擧ぐ。

家を繼ぐや祖宗の名望を保ちて之を殖さず家産を守り、家道を興し、また實業界に眼見を伸べて日本文具製造株式会社取締役となる。

現に擁立せられて横濱市會議員となり、市自治の爲に貢献して功勞多大なるものありき。

今次金港復興の大業興るに及び、横濱市臨時復興委員長に選ばれ、又は推されて第十二地區土地整理委員となる。而して市百年の爲に措置して公平無私、事業の進捗を資けて寄與大なり。名望従つて益々高きを加ふ。

家庭には東京府の人船見清修氏三女ふじ子夫人あり、君に仕へて内助の功厚く、其間四男二女を擁す。長男馬之助君、二男勝之助君、三男龜之助君、四男重胤君、長女いち子嬢、三女京子嬢にして、一家極めて美はしき圖景を成す。



第十二地区委員(副議長)

山中敏恭君

出生地 高知縣
生年月 明治三年七月七日
現住所 横濱市千代島町
丁目九番地
職業 醫師

君は明治三年七月七日、京橋に於て生る。家系は土佐藩士に屬し、君は東京帝國大學醫科に學び、卒業後帝大眼科助手となりて勤務せしが、明治二十六年開至し爾來三十五年間相繼ぎて今日に至る。

君は資性英邁にして且つ剛石の氣を負ひ、敢然として事に當る。横濱日々新聞の創立に奔走し、後その重役たりしが如き、即ち君のその手腕を知るを得べし。同時にまた君が人々の重望を負ふを見る。

君は少壯の時、大學に於て研學頗る厚く學問の蘊奥を極めたるが故、その醫師としての名聲は凡に遠近に高く且つ多年實際臨床の経験に従ふを以つてその手腕の健實にして患者に對して熱心なる、即ち君の今日に至る名望を築きたる所以に外ならず。君の學識と技術とは他國英邁なる氣象と毅然たる精神と公共事業に盡す事厚きと相俟つて君の地位をして益々高からしめしものにして、大正十一年には推されて横濱市議員に選出せられたり。

君が常に刀圭界にのみ重きを爲すのみならず更に社會的に博き重望を有するに非ざれば、如何で市會に椅子を占むるを得ん。その他かの横濱日々新聞の創立に與つて奔走せるが如く更に重役に就けるが如きは即ち君の社會的に有力なる所以なり。

而して君は横濱の刀圭界に於ては第一人者にして横濱市醫師會長に推される。以て君が醫師會に於ても常に信望を有して畏仰せらるるを見るべし。誠に君の如きは人格者にして且つ精神才能共に勝れし人と云ふべきなり。

君はまた横濱復興會委員たり、復興の大事業は即ち君の如き人を俟つて始めて最善を期すべきものにして、その委員に擧げられしは蓋し偶然に非ざるなり。また第十二地区区劃整理委員に推され名實共に復興横濱のために君の盡瘁を待望するや大なりと云ふべし。

不幸にして夫人に死別し、家庭には二男一女あり。何れも俊敏の聞え高し。



第十二地区委員

梅新 新堀佐太郎君

出生地 横濱市
生年月 明治十年九月二十五日
現住所 横濱市北方町西ノ谷
七百五十六番地
職業 地主、家主

君は明治十年九月二十五日、當地に於て生る。新堀家は二十四代連綿として相繼ぎての名風に著はる。

君は有名なる新堀源兵衛氏の令弟にして二十七歳の時分家して今日に及ぶ。君は最も父兄に侍するの禮に厚く二十七歳迄は父兄の爲めに身を致し眷々盡心したり。君の孝悌なるは人々の感嘆するところなりとす。

君は殊に身體保健と精神修練の爲め、多年永田、寶林寺禪門道場に學び大休禪師に就きて禪の蘊奥を極めたる人、故に人格の高潔にして毅然たる當代稀に見るの士といふべし。後農業に従事して身體精神共に修養を怠らざりき。君が今日の人格を達成したるまた一朝一夕に非ざるを知る。

前横濱聯合青年團理事として横濱聯合青年團を率ひ誘掖指導して多大の貢獻を爲したる等は即ち君の人格精神の柄手として秀れたりし故にして畏仰瞻望を受くるは偶然に非ざるなり。現に西谷青年會副會長に推され、依然として青年の指導に任じて倦まざるところ君の精神を見るべし。

横濱聯合衛生組合常務理事として横濱衛生界に貢獻せるところまた多大なり。町の衛生組長たること九年に及び、専らこの方面に於ける君の建策は特筆すべきものにして衛生施設の改善と衛生思想の徹底に寔を忘れて獻身せり。なほ國民保健協會同窓會理事として國民保健のために力を致し、勤儉獎勵會委員として人心の奔逸を戒むる等、社會公共の善導と向上に専ら日々活動す。或は方面委員として、或は三徳會理事としてあらゆる公共的機關に與つて倦まず。君が禪學によつて鍛鍊したる身體精神は完全にこの本領を發揮しつゝあり。また社會的功勞家なりと云ふべし。

君は禪學を信奉するの外、趣味として讀曲俳句を好むといふ、その生活の一面を辱すべし。

家庭には夫人こう子あり、長男龜之助君は日本大學在學中、二男元三郎君、三男通弘君、四男守之助君、次女悦子嬢ありて家内和樂なり。



第十二地 區 委員

勲七等 岡田 五三 君

出生地 山 梨 縣
生年月 明治九年十月二十五日
現住所 横浜市千代崎町
一丁目四番地
職 業 藥局及藥種機械商

甲斐は四面雄峰聳嶽に圍まれたる煙霞の境にして風俗亦純美にして俗弊に穢れざる事、其産子の處の水晶の如く清し。由來、甲斐の地より横濱に出で、名を成せるの士流は多く、君も亦其一たるを失はず。君は甲府市の舊家今村貞甫翁の一子にして、實家は吳服商を營む。若くして君は横濱藥學校を卒へ、明治二十九年、東京麻布一聯隊に入る。隊に在るや精勵にして克く軍務に服し、期滿して家に歸り、望まれて岡田或之進氏の養嗣子と爲る。明治三十七八年戰役起るや召されて出征し、勳功を樹つる殊に厚し。凱旋するや勲七等に叙せられて其功を賞せらる。

君の業は其善父或之進氏の創業に係り、當地有数の店舖として其名聲馳し明治四十四年、君は藥劑師試験に合格し、爾後斯業に携はつて衆人の信頼亦深く、また同業の間に尊敬せられて日本藥劑師會神奈川支部評議員及横濱實業藥劑師會幹事に任じ、其他横濱藥劑師會聯合會長として斯界に重きを爲しつあり。

また自治の爲に盡心し、社會事業に傾倒する事多大にして、前には在郷軍人團幹事たり、今は衛生組合會長として自治の補助機關を統率して施設大いに見るべきものあり、爲に衆人の信頼ますます厚きを加へつあり。今次横濱市復興の大事業に及び、君は第十二地 區より榮堂を負ふて區劃整理委員の大任に就き、専心復興の爲に努力しつゝあるは地 區民の大いに感銘する所なりとす。抑、横濱市復興の大事業は單なる一地方の復興にあらずして、實に世界貿易の振興の爲に、また、本邦最大の貿易港のために、且又國家の爲に全國民の協力を要するものなり、此見地に於いて委員の勞苦は一層多大なりと云ふべし。

君、家庭には久江夫人との間二男四女を挙げ、長男を幸夫君、次男を光雄君、次女を英子嬢、三女を喜久江嬢四女を善美江嬢と呼ぶ家庭は常に開誠謙和、談笑の聲を所たざる美風を有す。



第十二地 區 委員

石川 正七 君

出生地 横 濱 市
生年月 明治二十一年八月二十八日
現住所 横浜市神天通り
一丁目六番地
職 業 會 社 重 役

君の祖先は同縣下大師河原から出た人である。君の嚴父は治兵衛氏と云ひ、先々代清右衛門氏の養嗣子となつた。治兵衛氏は時勢を洞察する明のあつた人で、明治九年、當地に大和屋と號してシャツの製造業を始めた。文明開化は一名歐化を意味する。始めは伊達に着たシャツも、現在に於ては國民生活の必需品と爲つた。ハイカラを標榜してシャツを着た頃よりも、現在は其需要は必要缺くべからざる勢ひである。従つて家運の隆盛は君の家を見舞ひ、忽ちして産を積み、「大和屋のシャツ」は世界的に著名となつたのである。

君は明治四十年横濱商業學校を卒業して後家を繼ぎ、大正四年には組織を改めて合名會社と爲し、君は代表社員となつた。次で石川家の保全事業を目的とする石川合名會社を創立し、其代表社員に任じてゐる。斯く君の敏腕と、新智識とに依つて、販路は益々擴張するに及び、更に第二東海ラミ紡績株式會社取締役選擧せられ、相模砂利工業會社取締役にも推される。等、社會的にも君の存在は動かすべからざる勢力となりつゝある。

君はまた前途なほ春秋に富む青年紳士である。今後の活躍は之にのみ止まるものではあるまい。必ずや期待すべきものがあると信せられる。

今次、横濱復興の舉あるや、君は第十二地 區から推されて區劃整理委員の任に就いたのである。事業は君の如き新鋭有爲の士を得て、進捗見るべきものがある事は、横濱市百年の爲に慶賀に耐へない。

君は趣味として實生流の詩曲を弄くする。現に實生會幹事として同好の半耳を執り、向古古雅の樂の普及に努めてゐる。また讀書を好んで絶へず自らを培ふ事に努めつゝあるは奥床しい事であると云はねばならぬ。

家庭には八十夫人との間、五男三女の子を儲けてゐる子福者で、長男清一君、次男英一君、長女君子嬢、三女房子嬢、四女俊子嬢、四男四郎君、五男頼吾君がそれである。

第十二地 區委員

山崎己之藏君



出生地 千葉県
生年月 明治九年四月五日
現住所 横濱市伊勢佐木町二丁目二十三番地
職業 牛島料理(千葉屋總本店)

君は明治九年四月五日、千葉縣長生郡に於て山崎忠藏氏の長子として生る。君の家は代々農家を營みたりしが後農具商に移れり。君は二十三歳にして日本橋小原商店に入り農具及農具の地方販賣をなせり。資性俊異なる君も大成する以前は即ち役々として忠實に主家の業を守れり。然れども志すところある君は断然として従來の業を捨て、二十七歳の時、東京に於て牛肉卸及料理店なる「千葉家」を創めた。

爾來君は専心その業の發展に力め、營々として勤勉に働けり。その誠實は忽ちにして信用を得し名聲大に揚り遂に東京市内に十七ヶ所の支店を設くるの盛運を致せり。

山崎氏は人も知る千葉家の本店なり。隆々として盛大に經營互財を蓄へて今日益々その名高し。殊に大正二年より本店を當地に移して以來、君は家業の有名を爲せると共にまた社會的方面に於て奮然として頭角を現はせり。

然れども今日その盛名を克ち得たるは偶然に非ずして少壯より辛酸を嘗め一意専心邁進を續け來れるその勤勉誠實に所以するに外ならざるなり。小學校卒業後、補修科に學び、楠本醫院の藥局生となり三好芳石氏に就きて書及漢學を學びたり。即ち此の如く君の學に對する熱心はよく今日の君をして大成せしめたるものと云ふも妥當に非ざるべし。然も君は尙ほ現在英語を修業中なりといふ。その熱誠なる向學心實に特筆稱讃すべし。

君またはた社會公共のために盡身するの念に厚く、國勢調査、戶口調査の委員として活動し、また衛生組合委員たり。君がその多忙なる家業を以て而も公共に盡して倦まざるは則ち君の精神の篤厚を知るべし。横濱港和會幹事及會計係に、法運結社會計係に、千葉縣人會幹事長及會計係等に推さる。

横濱開港六十年來未だ牛肉商組合の設立なかりしを救き傳統的因習を除去し時と財とを犠牲として卒先發起人となり自ら同業者間を往復すること數ヶ月遂に其設立せらるる「ヤ」副組合長に擧げらる。

創業日向淺き組合の爲には事務所を提供し共に要する一切の費用を盡く出資して其發展の速ならんことを企圖せられつゝあり。今や復興事業に參して十二地 區區劃整理委員の任にあつて盡力大いに力む。君の信譽を負ふもまた宜なる哉。

君は各種社會的事業に當るほか書畫に對する趣味に富む。家庭には母室さわ子(七十二歳)夫人たに子(渡邊女學校出身)あり、長男喜一君は東京にて金物商を營み長女さみ子嬢は女學校に在學中。



第十二地 區委員

大久保與左衛門君

出生地 横濱市
生年月 明治二年五月五日
現住所 横濱市根岸町加曾二千四百四十六番地
職業地 主

春既に去つて浮塗の真浦角ぐみ、藤はゆかりの色に出で、鰯は火と機ゆ。三色菓、處美人草、露路におろせし露金香まで皆美はしき花を草園につけ、初鰯の聲を聞くころともなれば、地には青葉寒かに、露風生々の氣をもたらして天地新生の命あり。空には圓る五月朔のいさぎよき五月五日は即ち端午の節句にして男子祝生の佳節と爲す。我が大久保與左衛門君は此佳日を以て故與左衛門氏の長男に生れた。

君の家は異代農を以て業とし、當地に居を構ふる事既に久しく、舊家として知らるゝ處である。君は幼名を與平治と呼び、明治三十年家を繼ぎ、嚴君の名を襲ふて與左衛門と改めた。而して、安政五年横濱開港の事は、漸次東日本の要港たるの故を以て日を追ふて此地を繁盛ならしめ、君が成長の頃はいは都市の擴張甚しきに至り、遂に傳統久しき農業を廢せざるを得ざるに至つたのである。其頃より、君は前村會議員として、草創の横濱に寄與し來り、今や帝都の門戸、世界の大港都たるに及んで名聲愈々高く、當地の爲に勞働せらるゝ事多大である。また敬神の念厚くして當地鎮守神の氏子總代として奉仕する所亦甚だ多い。

今や横濱港都復興の大業興るに當り、君は第十二地 區より推されて區劃整理委員の任に就き發展する事甚だ厚い。近來區劃整理委員の動もすれば私利に奔つて其任の重大なるを忘るゝ概ありとの世評ある時、君の如き公平無私の委員を得たるは獨り同地區のみならず横濱市全體の幸びであり強味であると云はねばならない。

君は趣味として園藝を愛し、其技稱悔るべからざるものあるよしを聞く。家庭には母室と子刀自八十二歳の高齡を以てなほ健在として健在し、君之に仕へて孝養甚だ厚い。夫人とよ子の間には長男時京君の他に一男二女を儲け、一家團圓和氣常に堂に滿つるの美しき家庭を有し、訪客をして健康に耐へざらしめる。

第十二地區委員

上條 治君

出生地 福岡縣
生年月 明治十九年十月十一日
現住所 横浜市根岸町麥田
三千八百四十八番地
職業會社 員

聖徳なる玄海の波濤つくる所千代の定林、白砂青松、南國九州福岡の地は九州帝大、農大、高等學校等完備し市井繁然として、人口百萬、商況繁榮、西、文化の中心地である、福岡県田五十萬石の舊城下で慈々追らざるの氣風横溢せる所である、南の國樺社にして、情熱の國でもある、上條治君は明治十九年十月十一日福岡縣の聲を揚げ、壯年にして、北、北海道に移住し松前藩に仕官、此國武士の中に、毅然として、武勇と洗滌とを以つて名あり、二十年前東京に移住し、東京錦城中學に學び、直にソリヤノ商會に入り、健闘實に三十年克く今日迄營々刻苦、商會の爲に活動し、支配人の地位を占め益々重きを加ふ、君はその忍苦、責任を負つて、實業界の難局に直面し、能く今日の降昌を招來せるは決して偶然ならず、君の精力、君の才徳を以つて遂には今日の光榮を贏たるものである、實に、立派傳中の人物である、その間、外人に就き、英佛語を研究し、新時代の實業家としての紳士道及經濟を修得し、輝々たる實業家となり、震災直後、つばめシャツ製造所を設立し、これが經營をなし販路を全國に有し、その地盤牢として今日に到る、君はまた十六年前より寶石を販賣し行く所として可ならざるはない。

幸田青年會會長として、青年の指導誘掖に盡力し、衛生組合委員、市會議員として君の地位、君の信望は光輝燦然たるものがある、復興區劃整理委員として君の活動偉大なるは論ずる迄もなし。

趣味として、銃獵を良くし、寸暇を割いて山野を跋渉し、自然の風物に浩然の氣を養ふの雅あり、文明義母堂しき子氏尚健在にして、こと子夫人、長男次郎、長女まぢ子嬢、次女はる子嬢の一家七名の家庭あり幸福平和に満つる家庭の主人公でもある。

第十二地區委員

林 一藏君

出生地 愛媛縣
生年月 明治十七年六月十四日
現住所 横浜市根岸町麥田
三千八百四十三番地
職業醫師



南太平洋の怒濤に洗はれる四國の地は、由來精悍、勇猛の士を輩出し、積極的、進取の氣宇横溢し、明治維新の鴻業に寄與せる者多きは世間周知の事實ある、海外移住の如き一つにもつて、大國の慈々たるの風俗習慣を存す、板垣退助翁の如き板垣死すとも自由は死せずと、轟々吼し、一世を驚倒せる先覺者も遺憾なく四國人の氣質を代表せるものではないか。

我が林一藏君は明治十七年六月十四日愛媛縣の山河を擁護の地として七代目の小間物商店に呱呱の聲を揚ぐ、君も四國人の血を承け賑々として五管に瀝る血潮は勇往邁進、若くして、現實生活に直面し、苦心慘澹たる世路に當面したのである、君は松山、城北中學を途中退學せるも、彼の向上心は明治三十六年、孤影笈を負ひ上京せしめ、四國人の風格は獨立獨行、不撓不屈明治三十七年日本醫專に入學し、更に業を卒業、帝大專科及び傳染病研究所に入り研鑽怠らず、蘊奥を極め、懸望せられて、關東省都府府囑托として、奉天、大連病院に歴任し、殖民地の醫業に一脈の生氣を注入したるは勿論である、君は明治四十五年、横浜市に堂々たる病院を開設し今日、隆盛を見るは決して、凡俗の爲し能はざる所である。

前横浜市醫師會理事として、大いに活動せるは周知の事實である、また檢疫醫として、帝都關門横浜港の檢疫に貢獻せる所多大、現に神奈川県醫師會代議員の榮職にあり、衛生組合醫務囑托として親切なる指導者である、君は醫は仁術なりを標語として開業より今日迄終始一貫斯業の爲盡瘁せるは當今の珍とするに足り、衆の敬仰措かざる所以である。

君は父君與平氏の次男にして、晴子夫人との間に長男尊君、長女千恵子嬢、次女美恵子嬢、三女千鶴子嬢の一男三女を設け、一家團圓圓滿なる家庭の主人公として平和な日を送つてゐる。

君は餘暇讀書(實生)に世俗を忘れ、朗々たる音吐に陶然たるの趣味を持つてゐる、君の高風恬淡の氣と、嚴密なる頭腦と、透徹せる人間味は震災後復興の鴻業に善處し、區劃整理委員として横浜市再建に當り、盡瘁に至るなく一般より多大に期待せられて居る。



第十二地 區委員
佐藤 豊吉君

出生地 横濱市
生年月 明治二十二年十二月二十三日
現住所 横濱市北方町竹ノ花町
五百十四番地
職業 地主

帝都の復興は滔々たる二十世紀の文化を吸收し、近代科學を附帯とし、基調として、立體的に、市街建設の世界上に金文字を以つて、光彩陸離たらしめんとしてゐる。今や復興の途上にある。帝都は日夜夜々として、建設に向つてゐる。

人事百般複雑し、利害、休戚同じからずこれが救済、一致はまた難關と云ふべし、然れども、東京並びにこれが延長、支關たる横濱人は世界的日本の帝都建設に直面し、朝野一致、克く熱と、犠牲的精神に燃え、一日も早く、これが、完成を希ひ、その復興の意氣に充滿してゐる。活動の横濱港は日本の支關とも云ふべくこれが完成は一に横濱市民の休戚の成るゝところである。東洋の大貿易港として、將また世界的貿易港として充實完備した横濱市街並に横濱港は、その完成の姿を見せるのも近き將來である。

君は明治二年師走二十三日横濱市に生る、故兵衛門氏の長男である。
由来佐藤家は横濱屈指の素封家にして舊家として知名である。
先代兵衛門氏は土地の先覺者にして、種々の名譽職を勤め、當地の土地改良等の大事業は尊父のなせるものである。

君は明治二十八年相續し、尊父の事業を繼承して、益々事業の振興を策し、隆々たる盛名を馳す。
君は餘勢を以つて區政自治の議政壇上に起つて、これを善導し、抱負意見を述べ、その自治體の中堅人物として終始し前區會議員の要職にあつた。國勢戸口調査員として好成績を挙げた。また衛生組合組合長たること二十七年間現にその要職に在る。竹友會副會長として、實權を握り、君は近代的理性の人として一面情熱の人として、その中庸、温健、公正の點は區民の敬仰するところである。

君は推されて、帝都の支關、横濱港、並に横濱市の復興の戦線に馳騁し、その抱負を實行しつゝある、中堅人物である。
家庭には賢夫人せん子夫人あり、三男三女を挙げ長男萬藏君は日本銀行に勤めてゐる。次男政雄君、三男義雄君あり、長女秀子、次女八重子、三女清子の令嬢あり何れも聰明、前途洋々たり、家庭、圓滿にして笑聲に溢るるは羨望されるところである。



第十二地 區委員

金子喜代藏君

出生地 横濱市
生年月 明治十八年五月五日
現住所 横濱市本牧町臺山
千七百九十六番地
職業 地主、横濱農産物
販賣組合専務理事

茫茫たる太平洋を距て、南北亞米利加に對し、海外貿易の關門を扼する横濱港は滔々として、オール日本の代表的貿易港として完成されんとしてゐる。

若き日本の活躍は一つに海外貿易の盛衰如何に懸つてゐる、二萬噸級の大船を吞吐し幅横ゆるが如き横濱港の盛衰を見なければならぬ。金子喜代藏君は横濱に呱呱の聲を挙げ博識館に舉げ新進氣鋭の才物である。嘉永二年ペリが三百年の鎖國を破り、近代文化を注入して興れた當時、金子家は常所に在つて、實に草分である。舊家にして鎌倉時代の落武者である、代々、その開發に努力し、徳望並び稱せらる。

君はその血統を享け義侠的熱血男兒で、公共事業に没頭し、一方、農村の振興は國本なりとの信念の下に、大正八年横濱農産物販賣組合を起し、その専務理事として、奔走到らざるなく、専心その誘導向上に資する所多大である。

突如として起きたる未曾有の大震災動阿鼻叫喚人々迷動して成す處を知らざる時驚然各戸を驅て一戸一人の男子を叫合し消防警戒救護醫務部を設け指揮克く町内の猛火を防ぎ難民に先づ焚き出し及負傷者救護に盡し二年禁の大釜も全く底を抜く有様であつた。戒嚴令布かれて後上臺救護團を設け父君を團長として克く盡し救護の延人員實に四十万人以上とある。親戚文字兄弟其他一同市長より感謝狀並に各木蓋を贈られた。別に尙ほ人口調査員として、活動し、現に本牧青年團を組織して理事に當て相談役たり。物價調節の使命たる中央卸賣市場の市の建設に關し、研究會委員として、其他名譽噴々たるものあり。

震災後の一大飛躍時代に處し、國家百年の計を樹つる好機會に遭遇し、内外多忙なるの秋、徒らに呆然自失すべしにあらずとして、復興の熱烈なる意氣は横濱市民の胸間に滿ち充ちて榮光の日を持ち化びてゐる。その頼母しき意氣を憶ふべきである。君は其内にも殊に復興の意氣昌んでゐる。

君はこの多難なる復興に區劃整理委員に推されて、必ずやその大局より堂々公共的利害の下に、その公明な才能を發揮し、善處するであらうと思はれる。家庭には賢安藤氏に孝養怠らず、さだ子夫人との間に長男藤太郎君、長女はな子嬢、次女君子嬢の一男二女を挙げ、一家の慈父として、春風臨瀟。君は公共事業に盡す一方諒曲(觀世流)に悠々たる氣宇を見せてゐる。



第十二地 區委員

山之井善太郎君

出生地 神奈川県
 生年月 明治二十一年七月十八日
 現住所 横浜市北方町竹の花
 四百八十三番地
 職業 薪炭、製氷、石炭問屋

人間道途流離の社會相の中に、悠々たる自然、行雲流水、仰いで永劫を憶ふのである、湘南茅ヶ崎の風光は山來、詩の國、歌の世界であつて、人生を思索するに十分である、山雲水明の茅ヶ崎の波は悠久である。

茅ヶ崎は憧憬に燃ゆる情熱の國である、我が山之井善太郎君は、茅ヶ崎の舊家に生れ、この自然を掩護の地とする。君は大自然の感化を受け超然たる傑物である、女性純直にして、多感なる人間道の所有者である。

君は頭腦明徹にして、横濱にて修學し、年齢僅に二十三歳にして實社會の渦中に飛び込み、裸一貫にして、薪炭業を始め、救合艱難、世路の辛酸をなめ、遂に押しも押されぬ當地一流の薪炭商として活動してゐる。

如何に君が果敢にして、着實なるかを推測するに足るのである、先見の明こゝに成果を治めたるかを窺知せしむるのである。七、八年前より一方製氷卸商、石炭の販賣に従事し、業務益々多端である。

夫人松子との間に正明君、清君、雪子嬢、千恵子嬢、淑子嬢、八重子嬢の二男四女を設け、家風剛毅、益々家運隆昌の域にあるは慶賀に堪えない。

君は震災直後、數多の罹災民の爲に八方救助に奔走し、近在の衆人より慈父の如く敬慕されるのは君の徳望、性格の發露である。

國勢調査員、震害調査員を勤め現に横濱水業組合理事、横濱薪炭商組合部長、亦竹原衛生組合委員、同青年會理事等であつて今回押されて區劃整理委員として噴々たる名あり、餘暇山に海に悠々自適をなすの雅風あり。

第十三地區 國施行

大正十四年六月三日横濱土地區劃整理委員並ニ同補員委員ノ選舉ヲ行ヒタリ

土地區劃整理委員

- | | |
|----------------|-----------------|
| 七番 議長 忽那惟治(地) | 八番 副議長 牧内元太郎(權) |
| 一番 兵頭守時(地) | 二番 山本直次郎(權) |
| 三番 金子福藏(地) | 四番 奥山喜平(權) |
| 五番 小島榮次郎(權) | 六番 平沼覺次郎(地) |
| 九番 三菱倉庫株式會社(地) | 十番 一ノ瀬與左衛門(權) |
| 十一番 海老塚徳三郎(地) | 十二番 清水彌之松(地) |
| 十三番 根津酒造藏(權) | 十四番 針山勘二(權) |
| 十五番 西田義方(地) | 十六番 若尾幾太郎(地) |
| 十七番 佐藤安明(權) | 十八番 福田勝平(權) |
| 十九番 松浦吉松(地) | 二十番 佐藤幹治(權) |

土地區劃整理委員補員

- | | | | | |
|-------|----------|-------|-------|-------|
| 土地所有地 | 共同運輸株式會社 | 八木庄兵衛 | 小池季一郎 | 田中八十吉 |
| 金子大八郎 | 内藤市太郎 | 金子常太郎 | 宮下金次郎 | 井上定吉 |
| 借地權者 | 内海健郎 | 森 官藏 | 清水榮助 | 加藤竹吉 |
| 小泉小三郎 | 鈴鹿金之助 | 關川重吾 | 内田久太郎 | 長野年之助 |

地區々域

漆町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、眞砂町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、尾上町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、常盤町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、住吉町一丁目、同二丁目、同三丁目、相生町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同六丁目、太田町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、辨天通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、南仲通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、本町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、北仲通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、元濱町一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、海岸通一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、境町一丁目、同二丁目、住吉町四丁目ノ一部、同六丁目ノ一部、相生町五丁目ノ一部、北仲通六丁目ノ一部、海岸通一丁目ノ一部、山下町ノ一部

整理前後地 面積比較表

總面積	整理前	整理後	減少率
一七六、〇六八	一七六、六五八	四九、四一〇	二四、一七二
宅地	公共用地	宅地	公共用地
一七六、〇六八	一七六、六五八	四九、四一〇	二四、一七二
〇、〇九六	〇、〇九六	〇、〇九六	〇、〇九六

委員會經過ノ概要

- 一、大正十四年六月二十日 第一回委員會開會、議長副議長ノ選舉ヲ行ヒ、委員會ノ席次ヲ定メ委員會組織ノ要項ヲ審議シ、議事規則ヲ決議ス、更ニ第一號整理前土地面積決定期日ノ件ノ提案アリ審議ノ結果之レヲ決定ス
- 一、同年七月二十九日 第二號整理前路價指數ノ件ノ提案アリ之レヲ審議ス
- 一、同年八月六日 第二號案ニ付キ全員協議會ヲ開キ之レヲ協議ス
- 一、同年八月十一日 第二號案ニ付キ全員協議會ヲ開キ協議シタリ
- 一、同年八月十一日 第二號案及第三號整理前各埠當リ指數ノ件ヲ審議シタルモ決定ニ至ラズ
- 一、同年八月二十七日 第二號案、第三號案ニ付キ全員協議會ヲ開キ之レヲ協議シタリ
- 一、同年九月二日 第二號案、第三號案ノ審議ヲ重ネタル結果之レヲ可決シ、更ニ第四號換地位置決定ノ件ノ提案ニ對シ審議ス
- 一、同年九月八日 第四號案ニ付キ全員協議會ヲ開キ之レヲ協議ス
- 一、同年九月十四日 第四號案ニ付キ全員協議會ヲ開キ協議ス
- 一、同年九月二十二日 第四號案ニ付キ全員協議會ヲ開キ協議ヲ重ス
- 一、同年九月二十六日 第四號案ニ付キ全員協議會ヲ開ク
- 一、同年十月十九日 第四號案ニ付キ審議シタリ
- 一、同年十月二十三日 第四號案ニ付キ審議シタルモ決定ヲ見サリキ
- 一、同年十一月二日 第四號案ニ付キ審議シタルモ決定セズ
- 一、同年十一月十九日 第四號案ニ付キ全員協議會ヲ開キ之レヲ協議ス
- 一、同年十一月二十七日 第四號案ニ付キ審議ヲ重ス
- 一、同年十二月四日 第四號案ニ付キ審議シ後全員協議會ニ移リ之レヲ協議ス
- 一、同年十二月八日 第四號案ヲ審議ノ結果其ノ一部ヲ決定スルニ至ル
- 一、同年十二月十一日 第四號案ニ付キ審議シ後全員協議會ニ移リ之レヲ協議ス
- 一、同年十二月二十一日 第四號案ヲ審議シタル結果其ノ一部ヲ決定スルニ至ル
- 一、大正十五年一月十八日 第四號案、第六號整理後路價指數ノ件ヲ審議シタルモ決定スルニ至ラズ
- 一、同年二月四日 第五號正金銀行本建築出願ニ付キ換地面積假決定ノ件ニ付キ審議シ後全員協議會ニ移リ之レヲ協議ス
- 一、同年二月八日 第五號案、第六號案ニ付キ審議シ第五號正金銀行本建築ニ付キ換地面積假決定及第六號案ノ一部ヲ決定ス
- 一、同年三月八日 第五號案、第六號案ニ付キ全員協議會ヲ開ク
- 一、同年四月二十九日 一般事項ニ付キ審議ヲ爲ス
- 一、同年五月五日 第七號換地面積決定ノ件、第八號整理後各埠當リ指數ノ件ヲ審議シ、第五號案中(第四、五、九、十三、六、八、十、十四、四十二)プロック)分ヲ決定シ、第八號案ニアリテハ(第四、五、九十三)プロック)分ヲ決定ス
- 一、同年五月二十七日 第七號案、第八號案ヲ審議シタリ
- 一、同年七月十三日 第七號案、第八號案ノ審議ヲ重ネタリ



第十三地區委員(議長) 忽那惟次郎君

出生地 愛媛縣
 生年月 元治元年四月五日
 現住所 横濱市真砂町一丁目七番地
 職業 相續物輸出商(會社取締役)

太政大臣藤原兼家の第五子にして右大臣にして氏長者となり、後一條、後朱雀の御外祖父として權威無双、太政大臣に進み、望月の缺けたることもなしと傲語せる法成寺開白道長卿は實に君が遠祖にして、其裔は南朝の忠臣藤原四位義範公なりとす。後醍醐帝の皇子懷良親王延元三年征西大將軍として鎮西を征し、十三年菊池武光と共に少貳頼尙を大原に破り、勢威大いに振ひ給ひしも後醍醐に隔らせらる。君が家祖即ち挺身親王を助け參らせ、難境に處して大義を誤らざりし誠忠の士なりき。後伊豫忽那島に守護たりしも小早川隆景に滅ぼされ、郷士となる。君の令兄忽那君に至る實に六十三代の舊家なりとす。

大正十三年今上四國に幸し給ひ、扱くも祖先の忠誠を思はせ給ひて忽那家の資料を天覽ありし名譽の家柄なりとす。

君は故次郎太氏の二男に生れ、明治二十年當地に來つて生糸賣込を業とす。勤勞勲勉にして克く今日の富を爲したる他面、公共の事に盡して至誠献身、祖宗傳來の名聲を辱めざる孝子なり。兼には選ばれて横濱市會議員と爲り、市政壇上の一人格として尊崇厚く、今は横濱商業會議所議員として同地實業界に重きを成し、また一異彩を放つ。君は其傳統とする處の皇室中心を以て第一の所奉主義を爲し、眞摯青年團長として常に此主義を強調し青年を率ゐて勉く處を誤らしめざるは、實に其最大なる功績とすべし。また國勢調査委員、方面委員の經歷あり社會事業の方面にも、また君の翁長からざるを觀ふべし。

今や横濱港都復興の大業興るに及び、君は推されて第十三區に區劃整理委員となり、議長の重任に就く、平常懐抱する處の至誠奉公の念は隨所に發揮せられて地區民の信頼甚だ厚し。

家庭には夫人とら子との間、令息堅三君あり、目下慶應義塾大學に在學中の俊子にして君既に其後を顧るの憂を有せざるなり。

第十三地區委員(副議長)

牧内元太郎君

出生地 上田 市
生年月 明治元年一月八日
現住所 横濱市南神通四丁目七十三番地
職業 新聞業

抑々横濱市に帝國第一の生絲輸出港にして世界屈指の大貿易港たり。兼ねて帝都東京の支那たるを以て其消長は国力の興亡を左右するの關係に在りとす。然るに大正十二年九月一日突如關東地方を襲へる大震災は東京市及横濱市其他の都邑に慘むべき損失を與へたり。今や之が復活の爲に國幣を向け業習を協せて其萬全を期しつゝある復興事業に於て我が牧内元太郎君の如き有識の紳士を得たるは事業の爲吾人の欣慶に耐へざる處なりと謂はざるべからず。

君は長野縣上田市の人、嚴君は牧内徳太郎氏にして君其長男を以て呱呱の聲を揚ぐ。明治三十五年一月十九日嚴君の長逝に依りて家督を承け奮闘努力して今日の地位を築ける力行の人なり。

由来、長野縣は其文化の高き事に於て本邦中の首位にあり、君亦幼にして既に穎悟、時代の趨勢を洞察する事極めて敏く、また社會國家の爲に益々明化の度を向上せしめんと欲して操縦の事業に心を潜む。現に横濱毎日新聞社長として始終秋霜の如き理性と春光の如き温情を以て一世を指導し、富貴も淫する能はず、威權も屈する能はざる君の態度に依りて社運極めて隆々信用甚だ厚し。

君は他而筆の外に於ても社會公共の爲に盡す事厚く、信望甚だ高く、今次金港復興の大業興るに及んでは推されて第十三地區士區劃整理委員となり、副議長の重任に負く。以て其業人の信頼を知るべく、君亦公平無私の措置を講じて其頼依を交しうせざる處敬仰に耐へざるなり。

家庭には同郷上田市飯島孫右門君令妹しげ子夫人あり、内助の功厚き賢夫人にして君との間二女を擧ぐ。長女あい子嬢は既に養子八郎君を迎へ、次女富美子嬢も他に嫁ぎ、あい子嬢は既に美智子嬢(五歳)を擧ぐ。君家中の珠の如く之を受し一家春風斷えざるの和樂をなす。

第十三地區委員

法學士 兵頭守時君

出生地 愛媛 媛 縣
生年月 明治十八年九月三日
現住所 横濱市尾上町七丁目七十五番地
職業 辯護士



君の祖父君文齋先生は伊達侯の特許にして仙臺藩の鴻儒、兼ねて謡曲の名家たりき。君の嚴君は遺産の道に明るく、百萬の富を成せる人にして名は清濁氏、君は其長子なりとす。

愛媛縣北宇和郡吉田町に生れ、長じて宇和島中學に入り、第五高等學校を経て東京帝國大學法科に學び、専ら獨逸法を攻究し、業績優秀なりき。明治四十四年學志を出で、直ちに東洋生命保險會社に入り、臺灣出張所長、北海道出張所次長を経て千歳大なるものありしが、大正三年辭任して現在の地に辯護士を開業す。業務に當るや極めて明敏、其建議を仰ぐれば忽ちにして事理を辯じて快刀亂麻を斷つる概あり君が力を仰ぐもの門前踵を接ぐに及び、招聘せられて渡邊銀行、左右田銀行、横濱商業銀行の法律顧問と爲る。

また横濱商業補習學校囑託として、施設する處甚だ多く、繁忙の裏好く實業教育に盡瘁して功績甚だ厚し。君名家千金の子に生れて、而も俊敏の才あり。國家有用の材として廣く經世の業に當り、衆庶の利益の爲に一身を傾けて能む處を知らず。今また横濱港復興の大業興るに及んで衆悉く君に期待する事厚く、第十三地區より推して土地區劃整理委員を囑す。變更に忙を加へたりと雖も、毫末も能む處なく、復興事業の大成に向つて邁進しつゝあるは、地區民の推服措かざる所なりとす。定に横濱市復興の事たる單に横濱市の事にあらず、東日本物貨の集散地、帝都東京市の咽喉、世界屈指の大貿易港の復興にして此事業たるや世界興業の上に影響する處極めて大に、事の成否は我帝國民の氣力の有無を問はるゝものにして、委員の職は甚だ重大なるものありとすべし。斯の秋に於て君の如き達識明敏の士を得たるは港都百年の爲大いなる幸慶と謂はざるべからず。

君、家庭には宇和島市土居春板氏の女実名子夫人あり、君との間長男武雄、次男清光、三男忠、長女嘉子、次女房子、四男眞男、三女照子の諸兒を懐して圓滿幸福の良家を營む。而して嚴君清濁氏は八十歳の高齡を以て健存し、君が活動に満足せられつゝあり。非出度家庭と云ふべし。君はなほ、祖父君の血を受けて觀世流の謡曲に堪能なり。



第十三地区委員

山本直次郎君

出生地 滋賀縣
生年月 明治三年九月二十五日
現住所 横濱市辨天通り
職 業 絹織物輸出入商

君は明治三年九月二十五日を以て近江國栗太郡物部村大字今宿に生れた。嚴君は故山本辨治氏、君は其長男である。

山本家は累代近江に於て商業を営み、君を以て既に五六代を數ふる舊家である。君は少年時代から實家の業たる肥料及佛具商の經營を見習つてゐたが、後、志を貿易事業に游め決然志を等て、横濱に來つたのである。時に明治二十三年で本町一丁目に店舗を設け、専念貿易事業に従事したのである。而して其努力と勤勉と明敏なる商才は次第に家運を開拓し來つて、多大の發展を遂げ、明治三十一年には辨天通に移つて益々事業を擴張し、今日に於ては絹織物輸出に於て同業間に重視し現在横濱輸出絹同業組合評議員兼會計の地位に在りて斯界の發展に寄與し、同年五月一日には日本絹物聯合組合横濱輸出同業組合の囑託を受けて北米合衆國政府に視察旅行を爲した。君は他面社會公共の事業に盡して功勞多大なるものあり。前には南太田町衛生組組長として自治の發達に貢獻し、組合長を辭して後も衛生委員として長年盡瘁してゐる。また横濱家内工業調査委員として精銳盡力し、其他各種の公共事業に盡して功勞多大である。

今次、横濱市復興の事業興るに及び、第十三地区より推されて土地區劃整理委員の任に就いた。横濱港都は日本東部の咽喉地であり世界の大貿易港である。この興廢は殊に貿易業に従事する君の家業に影響する所其大であり、之を大にしては日本興業の盛衰に及ぼす所深甚である。君は日本貿易事業の爲にもその復興の一日も遅かならん事を思ひ、復興事業の達成に精銳しつゝある。

君は趣味として、書畫及骨董を愛好し、其蒐集には倦むべからざる鑑識眼を以て之に當ると云ふ。

家庭にはなか子夫人との間二男一女を有し、長男龍太郎君は既に早稻田大學を出で、次男寅二君は家業に従ひ息女峰子嬢も家に在り、一家極めて平和の譽みをなしてゐる。



第十三地区委員

奥山喜平君

出生地 横濱市
生年月 明治二十二年
現住所 横濱市海岸通り
職 業 會社重役、松坂屋旅館

居停は其主人に人を得ると否とに依りて旅客の身心に影響する所頗る大なり。主人若し旅客をして其家庭に在る如く之を遇さば、感然は之を感ずる事なくして止むべし。況んや、横濱市は、萬里の波濤を凌ぎて遠來する外客の第一歩を印するの地にして、大東京の玄関たり。其一步にして土人の氣質、風俗、人情を知るを得るは之に接する機會を最も多く有する旅館業者其第一なるべし。また、彼等に對しては私設の外交官たるに等しく、單に外人と云はず其人に對して感ずる第一印象はやがて其に對する好惡を左右すべし。

我が奥山喜平君は嚴君喜平氏の明治初年茶の輸出を營み、十七八年の交失敗して旅館業を營めざるを、年僅か十七歳にして繼承し、家號松坂屋旅館をして横濱第一流のものたらしめ、傍ら、明治大學に學んで其教養を高くするに力めたり。大震災に際して一度島倉に歸せしめたる旅館を直ちに復興し、更に本年二月には元濱町三丁目より最新設備を具有せる現在の新築家屋に移りて、益々面目を改むるに至る。而して其學識あり教養ある君の施設は旅館業者中の異彩として、ますく其家を重んじしめ、現在に於ては横濱關内旅館業組合長、移民乗船開業總代、移民宿泊業總代として同業間に重視せり。また、大正二年ジヤパン、エクスプレス株式會社に關係して大正十二年其社長に選舉せられ、益々横濱港との關係深甚を加ふ。

君は又公共の事業に就ても種例する處厚く、元濱町會評議員として町治に盡し、東都青年團評議員としては青年を誘導し、國勢調査員としても精銳大なりき。

今次、横濱港都の復興事業興るに及んでは第十三地区區劃整理委員に推されて更に盡力する處あり、公平無私の措置を講じて大いに尊敬せらる。

家庭には伊勢の人アキ子夫人あり、君に對して内助の功厚く、一女貞子嬢を譽ぐ。一家圓滿平和して春風常に馳騁たる感あるは訪人の健康する處なり。



第十三地区委員

小島榮次郎君

出生地 千葉県
生年月 明治八年七月十四日
現住所 横濱市太田町三丁目四十六番地
職業 洋傘製造販賣業

君は千葉県夷岡郡大多喜町の八川島徳兵衛氏の長なり。明治八年七月十四日を以て呱呱の聲を揚ぐ。生家川島縣は大多喜町の舊家にして、我邦に洋傘を流行せしめたる先達の家に屬し、洋傘製造販賣を以て業とす。君は明治十七年横濱に出でて業を習ひ、更に東京市日本橋區小川町助商店に入り、修業大いに力を在る事七八年にして、小島助七氏に見出され、懇望に従つて小島家に入り、やがて先代の遺業を繼ぐ。小島家は伊勢助商店と號して同じく洋傘商の元祖なり。其製造に於ても亦先鞭を著け、既に助七氏は慶應二年甲斐に於て洋傘用の生地を製出せしめたる斯界の先覺にして「獨驅傘」の名は始めて氏に依て命名せられたるものなりと云ふ。

抑々、業を創めて社會の先覺と爲るは、特異なる業務に於て特に其困難は想像に餘るべし。我國固有の風俗たる「カラカサ」の流行を一變せしむるは固より、新奇なるもの、流行を實施するは大なる冒険を伴ふ。先鞭を著くるの煩ひは實に多大なるものあれども、是が實施せられて流行を一新するを得ば無上の快心事なるべく、販路も従つて大なるを得べし。小島家の家業も先鞭を著けたる事に依て頓に盛大に赴き、今日に於ては斯界に於ける最大の洋傘店として獨歩し、其事業は大いに酬はれたるなり。君は家業の業を繼ぎ、更に多大なる發展をなさしめ、ます／＼家名を興すに至る。其業は即ち實家の業とせる處にして、固より熟練せるものなるに、加へて君の商才は當然斯は恐き未れるものと云ふべし。今次、横濱市復興の大業興るに及び、第十三地区より業望を負ふて土地區劃整理委員となり、幹事の勞多大なるものあり。以て業の進行を益ぐる事尠しにあらざる。君は趣味として書畫骨董を愛し、其鑑識も亦凡にあらざる。家庭には夫人との間一男四女を擧げ、美しき團圓を作す。



第十三地区委員

平沼覺治郎君

出生地 横濱市
生年月 明治三十年十月十日
現住所 東京府下大崎町長者町三百二番地
職業 地主

國家に於ける青年は、國家活力の源泉たる重大なる地位に在る。其興廢は相互の興廢である。明治維新の大業も、興國の大戦役も、悉く青年の手に依て成就せられたにも係らず、僅か二十年を経たる今日の有様は、寧に青年の無氣力を示すものではないか。吉田松蔭は、大余翁は、ピットは、亞歷山大王は、渺くもその意氣だけに於ても之を今日の日本青年に求め得ないではないか。青年團の如きすら、今日に於ては老人の指揮の下に在る。此等相當つて、我が平沼覺治郎君を年齒而立に達せるのみなる青年に見出したのは大いに心強しとする所以である。君は平沼專藏翁の令孫で、全平沼家の本家である。明治三十年十月十日、故郷治郎氏の次男に生れた。大正五年慶星中學を出で、早稻田大學政治經濟科に學んだが、大正九年十二月一年志願兵として近衛歩兵第三聯隊に入るに及び、學を廢した。名家千金の子として生れたが、一朝兵役に就くや精勵軍務に服して隊中の範と爲つた。服務終つてより自家の土地を管理し以て今日に及ぶ。十三年陸軍歩兵少尉に任官した。

今次、横濱市復興の事業興るに及び、推されて第十三地区土地區劃整理委員として起ち、復興事業に新進氣鋭の力を加へて事業の進捗に益する事多大である。横濱の平沼家として知られた君の一家は、横濱市とは密接不可離の因縁に在る。其復興の爲に活躍するものも、また偶然ならざる宿命的なる仕事だと云へないであらうか。君の趣味として最も好むのは機械を弄ることである。機械の研究には従つて一隻眼を有してゐる。君はまだ大人を持たない。家族は母堂さく子刀自、令兄義太郎君、令弟大三郎君、令妹文子嬢の五人である。母堂は當年五十一歳、君等仕へて孝養厚く、極めて美しい家庭を築みつゝある。やがて横濱市が復興事業の成就に據つて、舊の面目を一新して現出する時、市は君一家の活舞臺として一層晴れやかな日を迎へるであらう。

第十三地區委員

一ノ瀬與左衛門君

出生地 山梨縣
生年月 明治十六年六月十八日
現住所 横濱市相生町四丁目七十二番地
職業 櫻節卸小賣商、會社重役

山梨縣は南富士の秀麗を望み、北に國司金峯の諸峰を仰ぎ、東大菩薩の險峻武信の峻を眺て、武相に接し、西駒ヶ嶽赤石の高岳聳え立つ中に、珠玉の如く秘められたる仙地である。猿橋の奇、八潮の勝は更なり、山深く谷幽に水迅き朝霞常住の郷土は従つてそこに住む人々にも影響して人心素朴清純、而も山國特有の堅固なる意志を持つ。

横濱に來つて成功した人は甲斐には澤山あるが、我が一ノ瀬君父子の如きも其一である。

先代一ノ瀬與左衛門氏は、明治七年、横濱に出で、櫻節卸小賣を業とし、拮据經營、夙夜勉勵して大いに産を成した。二代を繼いだ君は嚴君の逝去した時僅かに二十歳であつたが、毫も屈する所なく、善く守成の大業を全ふしてますます家運を昌んならしめ、更に株式会社横濱貿易銀行取締役に選ばれて、大第に實業界に牢固たる地位を築くに至つたのである。

君は明治三十五年横濱商業を出た。同業界に雄視して今では横濱第一流の商舖であるが、横濱櫻節卸商同業組合相談役として、一層斯界の向上發展に寄與し、功績甚大である。

また善隣の誼頗る厚く、前には相生町々會長の任に在りて町治の爲に傾倒し、現に馬車道商業會副會長の任に在りて同町の發展の爲に盡るる努力を續けてゐる。また國勢調査委員として奔走した事もあり、君の社會公共に對する奉仕の念は年を遂ふて熾烈になりつゝある。

今般、横濱港都復興の大業興るに及び、君は第十三地區から押されて區劃整理委員の任に就いた。而して發奮する處公平無私、克く善々の至誠を致して事業の進捗を資けてゐるのは、地區民の推服する處となつてゐる。

君、家庭には母堂のぶ子刀自七十六歳の高齡にて孺孺として健在し、君の活動と孝養とを見て欣んでゐられる夫人との間には二男二女を擧げ、家庭常に圓滿諧和春風長へなる感がある。



第十三地區委員

海老塚徳三郎君

出生地 神奈川県 奈川縣
生年月 明治十九年十月一日
現住所 横濱市太田町六丁目百八番地
職業 横濱清泉合名會社代表社員

本邦隨一の貿易港横濱は漸く大變火災直後より遠ざかり、曙光漸く現はれ、昔日の面影なしと雖も昨今大變巨舶吞吐し、貿易界の好調を呈し來たつる復興成るに於ては帝都の關門日本の對外的貿易港として、黄金時代を實現するも近きにあらう、海老塚徳三郎君は明治十九年十月一日先代徳三郎氏の長男に生れ神奈川県太田町の廻濱業の家に生る。幼名を進一と稱し、爾來家事に従事し、父君を扶け、今日の隆運を招來せしめた。君の英才と、徳望と、公共精神の發露が然らしめた當然の報酬に外ならぬ。君は由來徳を見るに敏にして、事業の前途を洞察するの明あり、直に一路直往するの果斷の人、君は幼兒より先代徳三郎氏の教へた、横濱港の船舶給水業の緊要なるを察知し、明治二十三年この事業を始め。君は早稲田商科を卒業し、横濱生命保險會社に入り、五ヶ年勤織し、兼父の遺業横濱清泉合名會社に入り、大正十一年遂に代表社員として、その手腕、經驗を縱横に揮ひ、鬼才と仰がれた、大正十三年文華印刷株式會社を創立し、その社長たり、君は今や横濱市實業界の輝々たる人物として、押しも押されぬ當代一流の士である。市學務委員として君の言辭はまた市會の指導する所である、先代もまた、横濱市教育會副會長として令名あつた人、この親にしてこの兒ありの句至言と云ふべし。君は學歴としては横濱商業を出で、四十二年早稲田商科を卒業した。在學中より談論風發、才氣煥發の學徒で、雄辯家として鳴らしたものである。復興區劃整理委員として君の施設は能く斯業の難關を打開せしめるであらう、君の責任愈々重大なるものがある、家庭には兼父徳三郎氏、貴族院議員梅原修平氏の愛護柱子夫人あり、長男正(縣中學生)次男卓、三男元、長女昌子の三男一女あり、家庭和氣に充ち羨望絶えず、實に春風融融たり。また令弟小次郎君は早稲田商科出身にして、横濱生命朝鮮支店長の要職にあり、次弟は帝大經濟科を出で三井銀行に在勤中で、尤も前途を囑目されてゐる。一門は榮々、幸福の中に生活してゐる。

第十三地 區 委員

清水彌之松君

出生地 大阪府
生年月 明治二年二月 日
現住所 横濱市尾上町
職業 寶石貴金屬輸入商

徒手空拳を以て家を興し、産を積んだ歴史の中には、人知れぬ血と涙を含むものである。艱難を経る毎に玉成してゆく大丈夫の歴史は懦夫をも起たしめる壯烈さがある。此點に於て、此尊き歴史の保有者は尊敬せられねばならない。

我が清水彌之松君は大阪の人、清水治兵衛氏の長男に生れた。しかし、その両親は君を此頼り無き世界に置き残して、死別してしまつたのである。天涯に身を寄する處なき、君の不幸なる生活は茲に始まつた。或時は大阪で小僧奉公をした。年に二度の盛入りにも君は歸るべき温い膝を持たなかつた。別業に苦しめられても訴ふべき両親がなかつた。しかし、君の負じ魂は、この間にすばらしい成長を遂げたのである。少し位の不辛を不幸とも思はなくなつたのである。天の試練は始めは苛酷でありすぎたが、しかし、立派に今日の君を作り上げた。

それから君は明治十六年、十五歳の年に横濱にはる／＼出て来た。君の叔父なる人が、君に身を寄せさせたのである。君は此處で始めて血縁の愛を知つたのである。温い家庭は始めて君を迎へた。

明治三十六年、現在の地に寶石輸入商を始め、貴金屬を輸入し、其不撓不屈の精神を以て、奮闘努力した爲に家業は見る／＼隆昌に赴いた。明治四十年尾上町に轉じ、今日に及んでは多額納税者として、隆々たる勢威を張つてゐる。人間の一生程不可解なものはないと云ふが、しかし、それは偶然を信するもの、言葉に過ぎない、ミカレの人には決して偶然ではない。たゞ努力あるのみである。君はたゞ努力のみに依つて今日を得たのである。

今や、横濱は震災の痛手を癒し、再び健康なる世界の貿易港都を造せんと、全市を舉げて努力してゐる。第十三地 區 から、土地區劃整理委員として起つた君は、再び横濱市百年の爲に、昔の努力を繰返すに至つた。復興の爲には頗る心強い事である。



第十三地 區 委員

根津酒造藏君

出生地 横濱市
生年月 明治十年十月十日
現住所 横濱市相生町
職業 自轉車店

時流を洞察し得ると否とは、天性の明敏と否とに在るものにして、明察者は常に時代の先驅者としての名譽を恣にするを得、而して名を實と兩半らを兼ね得べし。

我が根津酒造藏君の祖父幸吉氏は、既に安政の初年、時の政府の意嚮たる横濱開港の機勢を視破し、事實上の開港に先だつ事二年なる安政四年横濱市に出で、土木請負業を始め、當時の横濱は蕭索莫たる一寒村にして住民極めて少く、此地に土木業を開始せる幸吉氏の事業は勢ひ多大なる冒険なりき。然れども時勢の赴く處遂に二年にして三十年の封鎖を破つて横濱を開くや、衆人争つて此地に赴き、俄然繁榮を加へ來つて遂に今日の世界的大港となる、従つて幸吉氏の事業も極めて顯調に赴き、「土手幸」の名は市井に威勢を張るに及べり。當時を追憶するとき果して土手幸の名を記憶するもの何名ありや。

君は明治十年、幸吉氏の男故光正氏の長男として生れ、十五歳の時煙草店を獨力經營す。二十九年に至つて日轉草の直輸入をなし、後自轉草業に轉じて今日に至る。

斯の如く、君は自轉草業界の元老にして、前には横濱自轉草業組合長として貢献し、自治の方面に對しても盡力する所多く、本町外十三ヶ町の區會議員として克く自治制の發展に方め、相生町の役員として勤積二十有餘年に及び、功績甚大なり。衛生組合長としては今尙其職に在り時旋多大多りとす。其他相生町青年會長を経て顧問の位置に就き、國勢調査、戸口調査にも委員として奔走し、横濱市青年聯合會評議員、横濱市第三方面委員としても現職に在り。

今次、金港復興の爲に第十三地 區 區劃整理委員として、公平無私の措置を講じ、業績見るべきものありて地區民の推服する所となる。君、家庭には母堂か子刀日七十八歳の高齡にて健在し、ゆき子夫人との間には長男正君を始め六男一女を擁して幸福なる家庭を營む。



第十三地區委員
針山 勘二君

出生地 長野縣
生年月 明治十年一月二十八日
現住所 横濱市本町
職業 和洋酒類食品賣場調劑

君の生家は長野縣上田市常磐城に於て代々養蠶業を営み郷里の令兄針山榮松君を以て十代を經る舊家である。君は嚴父亡母作氏の三男を以て呱呱の聲を揚げ、明治二十五年、上田松平學校を卒へ、家事の手助並に養蠶を習つて居た。

明治三十七年の春横濱に出て、當時神奈川縣々會議員、横濱市市會議員として威望高かりし藤澤金次郎氏の地所部管理人として内勤。頗る嚴格なる家庭に有て指導を受ける事滿十年其の間訓諭免許を得た事等が後年に於ける基礎となつて大正二年三月現在の地に榮極賣場を開業するに至つた。

翌年株式會社神國銀行の重役と爲り、大正七年神戸市に於て酒造界の重鎮高田三郎氏に知らるる處となり同氏後援の下に酒商を始めるに至つたのである。

是より前大蔵省認可交益無業會社の重役となり君獨特の手腕と眞實にして手堅き政策を以て加入者に對し最善を盡し社主を輔け大いに社運を昌ならしめ衆人の信頼を得るに至つた。君は敬神の志深く家族を慈み衆人に對する情誼の厚きは君の性格上特筆すべきもので故郷の人を扶け後進を導いて親切なるものがある。

現在信濃會常任幹事、及本町會委員、横濱三四會幹事として町の復興事業に盡心し功績甚だ厚い。

君は横濱酒類商同業組合代議員並に麥酒協定規約實行監査委員長として同業者間に重きを成して居る。

大正十二年九月一日に於ける振古未嘗有の大震火災に遭遇し家族と共に傾城家屋の下敷にせられたが勇氣を起し家族を屋根の上まで連れ出した時は龍巻暴風と共に火災は四方に起り、一霎に強大、多年の蓄財も僅の間に灰燼に歸し實に生氣は無かつたが、君は勇猛果敢にして善後の策を講じ家族を海岸に逃し自身は危険を冒して、駆せられたる幾多の人命を救助した。知事清野長太郎氏内閣總理大隈の感謝通牒傳達書及金一封を添へ其の篤旨を表彰せられ、又震災同情會々長徳川家達公より顯彰狀及金一封を下附せられたるは、君の當然享くべき光榮である。

震災直後は家族を郷里に預け自身は雄野に残りて愛市の爲復興に奮闘努力して同年十一月一日家族と共に現在の境に再建開店今日に至つたのである。今次復興の事業に與るに及び再び第十三地區より推されて起ち競争裡に當選し土地區劃整理委員として當年の努力を繰返すに至つたのである。

君の關係と人望とは地區民の信頼を賜ふに充分である。

君の家庭には郷里を同じうする、きこ子夫人がある。梶原得十郎氏の次女で針山家に嫁し茲に二十八年間君に對し内助の功多き賢婦人である。一人娘の嘉子嬢は養子信吉君を迎へ和氣充滿至極圓滿な家庭である。



第十三地區委員
西田 義方君

出生地 熊本縣
生年月 明治四年九月二日
現住所 横濱市磯町
職業 輸出 絹 商

西田家は累世熊本細川侯の藩士にして、義方君の嚴君貞幹君は維新の偉傑横井小楠先生門下の逸足なりしが、小楠先生の藩論と遇はすして藩を去るに及び、貞幹君も亦藩職を辭して世に隱るゝに至れり。而して熊本市藝園會に在て専ら閑居を樂しみ、殊に園藝に没頭して亦世事を思ふ事なかりき。晩年に於ては園藝界の泰斗と仰がるゝに及び、明治大帝九州行幸の際は君の長兄西田信幸君と協力して行在所に菊花壇を設け、以て天覽に供ふるの光榮に浴す。君は即ち貞幹の三男にして、熊本市藝園會に生る。明治二十三年熊本市々堂を出で、東京に遊び、商業專修學校を卒へて明治二十四年横濱に來り外國語學を學ぶ。

次で其年エーエス、ローゼンツォル商會に入り、二十七年コロン商會に移じ、フレザリ、ウァーレー商會、ジウエツト、ペント商會を経て三十八年七月獨立して輸出絹業を營み、以て今日に至る。同年上海、香港、シンガポール、ペナン、ラングーン等に商業視察を爲し、同年遠洲貿易を開始し、大正五年印度に延び、大正八年南洋に及び、更に大正十二年には朝鮮支那を巡遊視察し、他に横濱取引所取引員、横濱絹井に於ける絹布關係の諸商工業に従ふ。斯の如く業務の盛大に赴くと共に、其社會的地位も次第に高く、今や横濱市會議員、市參事會員として市政に盡心し、横濱商會議所議員として實業界に其地位を確立し、同勢調査員、所得税調査委員補缺員たる外、復興事業の第一線に立つて活躍しつゝあり、世界の貿易港都の爲に、貿易界の飛將たる君を頼はすに最も適材適處なるべし。即ち補償審査委員、第十三地區區劃整理委員、市復興會委員、臨時復興委員等、事業に關する百餘の名譽職に在つて一身を復興の爲に傾倒す。同業間に於ては横濱輸出絹物同業合組組長、日本絹業協會常務理事、横濱輸出協會評議員等の重職に在り。

君は趣味としては解女と等しく園藝を愛す。

家庭には良子夫人との間一男義雄君あり、現に米國に在て他日の雄飛に備へつゝあり。



第十三地 區 委員
佐藤安明君

出生地 山 梨 縣
生年月 明治十六年十二月十五日
現住所 横濱市 眞砂町
職 業 煙草、化粧品
土地及家屋管理業

家富み、一身業の敬愛を受け、更に父母の健在する、人生至幸の事なりとすべし。されば心地懇切にも「世間
に於て何者か最も富み、何者か最も貧しき。父母家に在る、之を名けて富とし、父母を在らざる、之を名けて貧し
とす。父母在る時は日中の如し、父母死する時は日没の如し。父母在る時は月明の如し、父母亡き時は闇夜の如し。
是故に汝等勤めて父母に孝養せよ。如此人は佛を供養する福と等し」と云へり。君は山梨縣の舊家に生れ、幼に
して横濱に出で、功成つて父母と共に家に在り、其榮達の歡びを共にする幸福見にして、嚴君は鐵造氏、七十一
歳にして僅存し、慈母はやさく刀自、六十二歳にして、櫻葉たり。

君の生家、代々農を業みしも、君は九歳にして横濱市相生町の叔母君なる佐藤いし子刀自の許に身を寄せ、長
じて商業に志し、三十六年現在の地に移つて官商公用の用途を業とするに至る。四五年にして地所及家屋の管理
を業とし、傍ら煙草商を營み、更に先年同郷地内にミルクホールを營むに及び、家運益々榮ゆるに至れり。

君は眞港青年團創立の議想るや、忽ち惟次郎君と共に其成立に盡力し、現在會計委員の任に在り、また眞港青
々計委員として町治の圓滑に資する事多大、火番組組長の任に在り、其他國勢調査、戸口調査に委員として幹
事多大、また衛生組合常務委員としても克く其職責を盡し業人に推服せられつゝあり。

斯の如く、公私多忙の身を以て今やまた推されて金港復興の事業に當り、第十三地 區 區 劃 整理委員として幹
しつゝあり。やがて金港復興成るの日、亦都東京市の咽喉、世界有数の良港は輝く新装を凝らして出現すべく、
君の努力も亦之に依つて酬むらるべし。

家庭には前記父母君健在にして、夫人久子は君を輔けて内助の功厚く令息一正君あり。一家和氣満々、春風常
に絶へざるの趣きあり、君の如きは幸福と富と名望を併せ得たるの士と云ふべきなり。



第十三地 區 委員
福田勝平君

從七位 勳六等 山 梨 縣
出生地 山 梨 縣
生年月 明治十六年二月五日
現住所 横濱市 常盤町
職 業 醫師 (眼科)

君の生家は山梨縣北都留郡西原村の舊家で先々代隆作氏は漢學者として知られてゐた。君は明治十六年、故友
三氏の男として呱呱の聲を揚げたのである。

明治三十七年、眼科醫開業試験に登第し折から日露戦役の勃發に依り軍醫として陸軍醫務に従ふて功あり、
從七位勳六等に叙し二等軍醫に陞任した。四十三年六月醫務局を辭し、次で獨逸に留學し、歸來東京帝國大學醫
科眼科教室補助手に任ぜられた。時に明治四十四年二月である。

大正元年十二月辭して現住地に眼科病院を開設し、多年の積蓄を傾倒したので、忽ちにして横濱第一の眼科醫
院たるの盛況を呈し來り、信用益々厚きを加へた。次で株式会社大森商店監査役に推されて大正十二年六月以來
其職に在る。

君は又公共の事に盡瘁する事頗る厚く、大正七年以來今日に至る迄、町衛生組合長の任に在つて自治の爲に幹
事多大、また常盤町睦會々長として町の發展親睦を責け、常盤町青年團顧問と爲つて大いに青年人氣の聚る所と
爲つてゐる。二回の國勢調査に其の委員を拜命し、戸口調査にも委員として轉旋する處多大であつた。

今次、横濱市復興の大業興るに及び、君は第十三地 區 區 劃 整理委員に推されて起つた。措置極めて公
平安當、地區民の信頼する所となつてゐる。君またやがて横濱市が世界の大貿易港都として、また大東京の咽喉
として其面目を一新した時は、その勞苦は酬みられるのであるとして、創務の傍ら、僅に所なく折衝を重ね熟議
を回して一意事業の達成に努めつゝある。

君は趣味として觀世流の論曲を善くする。聞取れば古雅幽玄の曲に興を通つてゐるのは其人何の一尊奥床し
い事を感じしめるものである。家庭には母家とく子刀自猶健在し、君之に仕へて孝養厚い。あまた夫人との間に
は令息英樹君、令嬢富子嬢を擧げてゐる。



第十三地 區 委員
松 浦 吉 松 君

出生地 濱 置 縣
生年月 安政四年四月二日
現住所 横 濱 市 神 天 下 通
職 業 絹 織 物 貿 易 商

君は近江國坂田郡柏原村の舊家故松浦七郎次氏の六男にして、安政四年四月二日、伊吹山麓柏原村に呱呱の聲を發けたり。慶應元年其の叔父吉田安兵衛氏の經營に係る金物商店に入り多年同店に於て金物の貿易を見習ひたり蓋し吉田金物店は金物貿易に於ける本邦の始祖にして同氏が後年當市貿易界の飛將たる契機既に此の時を有たりと云ふも故なきにあらず。

後神戸に赴き、専ら海外輸出品の研究に従事して絹織物の海外輸出の有望なるに着眼し五年の後明治十四年獨立開業し、京都市下京區に初めて絹織物貿易業を営み主として絹織物輸出賣込みを業とせり當時年備かに十九歳。後更に、横濱市本町三丁目に初めて支店を設置し業績益々舉るを見て、遂に、支店を本店に改め、更に三年を經たる明治十六年、現在の辨天通三丁目に本店を移したり。

明治十九年頃よりロシア貿易に志しウラジオ、モスコイ、ハルビン各地に支店を設け對露貿易に於ける活躍目覚しきものありしもロシア政變により、現在ハルビンのみを存續し他日の活躍に乏なり。明治四十年南米アルゼンチンに支店を設け南米開發に益々努力しつゝあり、大正六年組織を變更して株式會社松浦商店を組織し、自ら其の社長に就任せらる。爾來世界各地に、取引先を有し、其の進歩、確固たるものあり、殊に、ロシア、南米貿易の先驅者として、同業者間に於て優越なる地位と信望を有す。

同君は、明治十四年輸出絹物組合を創立して副組長となり後多年組合長の重任に就き輸出絹物の發展に多大の貢獻あり、大正六年横濱商業會議所議員に選任せられ爾來引續き横濱商工業の復興に努力しつゝあり。其の他往年横濱生絲取引所を起し又横濱火災保險株式會社を創立せり、君が本市實業界に於ける業績は舊界に於ける奨励者として名望隆々たり。又自治政のために盡せる其の功績は頗る顯著にして明治二十七年縣會議員に選任せられ又同三十二年區會議員に選任せられ區會廢止迄十二年間、自治體の爲つゝされたり、又衛生組合長、副組合長の公職に選ばれる事數十年に及ぶ。

今次横濱都市復興のため、選ばれて第十三地 區 副 整理委員となり尙又横濱市當局より推されて、山下町區副整理委員となる。君既に七十有餘たる元氣壯者を凌ぐものありと雖も此の老齡にして、尙横濱都市復興のたゞ身身的奮闘を續く。市民又幸なりと云ふ可し。

家庭に於ては照子夫人との間に多數の子女を擁し長男直次郎君は、外遊の歸途客死し長女よし子に養子彦三君を迎へて嗣となし専ら店務を掌り次男房三郎君は多年北米にあり歸朝後實業に従事す。三女徳子嬢は、宮澤世也君に嫁し四女みち子嬢は大川信次郎君に嫁し一族悉く榮え君は家庭的にも喜まれたる人と云ふべし。

第十三地 區 委員

佐 藤 幹 治 君

出生地 横 濱 市
生年月 明治十六年三月十五日
現住所 横 濱 市 常 盤 町
職 業 醫 師

君の家は横濱有数の舊家にして代を異ぬる事實に五六百年に及ぶ。異代名望赫々たるものありて、代官役をも勤めたることありき。

君は明治十六年三月十五日を以て、故正春氏の長男に生る。長じて醫學に志して慈惠醫學專門學校に學び、明治三十七年優秀の成績を以て學意を出で、折柄起りたる明治三十七八年戰役に三等軍醫を以て従軍し、功績甚だ厚く、凱旋後勳六等に叙せられ、其功を彰はさる。

君は名家に生れて祖先累代の名望を負ひ、仁術に従つて濟民の實を擧げ、一層家名を揚げたるに、たは社會公共の事業に盡して功勞多大なるものあり。曾て、本牧青年團員として本牧海水浴場の開設を率先提唱せし先覺者たる君は、更に常盤町青年團相談役として青年をして其行途を諒らしめざるべく導き、また之を率ひて社會事業に邁進する事厚きものあり。同業者間に在ては神奈川縣醫師會代議員として、錚々たる地位を有す。

明治四十二年、開港五十年祭當日を機として開業し、特に呼吸器梅毒に關する研究最も篤く、一般患者に對しては懇切の態度を持して診斷の如く、爲に常に盛況を呈したり。大正十二年の震災直後に於ては一時本牧に於て被災者の救護及診療に従事し、仁惠厚きものありしも本年二月再び、現在の地に復歸して開業す。而して業務は以前に倍するの繁忙を呈し、加ふるに公務の多忙あり、虚脱かなる遺なき現況なり。

今次、金港復興の大事業興るに及んでは、第十三地 區 委員より衆望を負ひて土地區劃整理委員の任に就き、世界の貿易港都たる本市の爲に、その復興の一日も遅かならん事を期して一身を傾倒して轉戦し、措置妥當公平にして克く地區民をして不平なからしむ。

家庭には、太田町村田重義君の親族、すみ子夫人あり。内助の功厚き佳人にして、君との間琴瑟相和し、春風臨瀟の良家庭を營みつゝあり。

山下町土地區劃整理組合準備委員

横濱市山下町は外國人の店舗及居住地なるを以て復興に關する區劃整理は何れも國際關係的なるにより、關係各國の權利者より代表者を選び、其準備委員となし區劃整理組合の組織に當らしむ。

準備委員

日本

日本郵船株式会社 出席者 石澤 民衛 中村 楠太郎 松浦 吉松

米 國

チー、エツチ、ブレイク エツチ、エー、エンズワース テー、エム、ラツフイン
デー、ウオーチ エフ、エヌ、レー

英 國

アール、デー、ベル エツチ、ダブリユー、ケント エム、ビー、マシユー
マッシュアル、マルデン シー、エツチ、オーエン イー、ビー、ストラウフ

佛 國

エツチ、エヌ、アークニー アール、ロバンクス

中華民國

招 保 民

山下町土地區劃整理組合準備委員

石澤 民衛君

出生地 東京市
生年月 明治十三年七月十五日
現住所 神奈川県輕井澤市千七百二十四番地
職業會社 社員

洋々たる海の神祕は人間の科學をして駭若たらしめる、水平線下に没せんとする太陽の深紅、浪の色、想ふだにその凄艶、壯麗、大觀は、悠乎として千萬無量の感激を以つて迫る、荒磯に砕くる千丈の雪飛沫、汀近き海に掠せば水は弾力を滿え、透徹玲瓏試に手も拘いたらんには五指また滑からんとする。ベルンヤ模様を織りなした海底の一葉、一藻、一時事も渾然として、凄艶ならざるもなく、さらに星月夜、洞門の奥深く棲むてふ妙音の女怪が、この夜の自然に堪えかねて咽び泣くを想へば神祕はこゝに盡きんとして盡きず、若しこれ海神怒れば大海洋の激潮、洞門に砕けて、水潭大に沖し百雷の如く、海嘯咆哮し、魔の海の華嚴は何人も知るによしなし、海の自然は靜觀と動搖との交響音樂である。海の國に生れた人は、海に飽くなき憧憬を持つ、海に圍繞せられた日本は、人口政策食糧問題等々、海にその解決の鍵が、握られてゐる。海よ、血潮高鳴る海の國、海國男兒よ、海に行け海に、海の寶庫、海の神祕がある、我が石澤民衛君は明治十三年七月十五日、東京に生る、青年にして、國家の興隆が海にあるを遂觀し、且つ海に多くの期待と、憧憬とを持つてゐた。明治三十七年商科大學を卒業するや、直に海の王國、郵船會社に入り、神戸、東京、天津、シヤトル、ニューヨークの各支店長を歴任し、現に横濱支店長の重職にある。氏は、豪放瀟灑の士にして、頭腦明晰、また涙にもろい人である。義侠心に富み情熱家でもある、君はこのたび推されて復興區劃整理委員となる。君の識見、抱負、理想の然らしめたる所で、君の非凡な才幹は萬人の期待する所である、君の前途大に多忙である。君の熱と意氣は周到な考慮を果斷に誇き、その成功を期せられてゐる。家庭には父君、波四郎氏、たけ子夫人、(神奈川県輕井澤市千七百二十四番地榮子操子の三令嬢あつて、家庭圓滿春風融蕩の觀がある。



山下町土地區劃整理
組 合 準備委員
中村楠太郎君

出生地 和歌山縣
生年月 明治八年二月三日
現住所 府下入新井大字新井宿
二千八百四十四番地
職業 合資會社中村貿易商會
代表社員

和歌の浦の夕映、紀淡海峡の白帆點綴する所とつふりと混つてゐる水平線の水、は實に都會の風塵を遠く離れて風光飽く迄絶佳、南太平洋の蒼茫たる海の涯、雄渾と水明を一括して和歌山の山河は悠久である。

中町楠太郎君は和歌山縣海草郡和佐の海邊に明治八年二月仲右衛門氏の次男として生る、君は獨立不羈の精神に富み青年にして、先見の明あり、明治二十八年神戸市五合町西貿易會社に入社し、營々刻苦、君の才幹は、拔擢されて、同三十年米國における同社支店店長となり、三十五年歸國、三十七年東京橋本町森村組に入社し收入係主任となり、大正三年同社横濱出張所主任として轉じ、大正八年森村組商事株式會社と改稱され、大正十一年同社出張所閉鎖に際し、その事業を、南伸通り四の七一に繼承して、合資會社中村貿易會社を設立し、その代表社員となる。同社は主として、雜貨輸出入をなし、米國、英國、加拿大、南米一帯へ販路を有し、隆々たる一流貿易會社となつた。君の才能、先見の明は方今極に見るの所にして、若冠にして既に時勢の進退を悟りて之に善處せんとして世の苦難に遭遇し遠く異國の空に發々として今日の地盤を築いた。君もまた立志偉大の人である。君は熱心放膽の精神を有し、その事業に忠實なること世人の認むる所、清濁併せて呑むの度量あり、彼は千萬人と雖も吾往かむと云ふ志の人でもある。その博識多才なるは喋々を要せず、常に歐米の書物を精讀し、新智識の所有著である。君の新しい科學的、智識、才能は復興事業を促進達成せしめるに與つて力あるは勿論である。君は今や推されて株式會社森村組代表社員として、山下町區劃整理委員の任に在る。

君の抱負は絶大なるべきもの多し、君は横濱輸出協會理事會計監督として横濱の實業界に輝々たる名譽を有す、君は、讀書の他釣魚眞に趣味を有し、天才的な君はまた、女人裸足の域に達してゐると云ふ。父仲右衛門氏及び母堂既に無けれども美代子夫人との間長男辰雄君あり、慶應大學在學中にして、家庭は常に春風吹きて、和氣堂に滿つ。

大正十五年十一月廿二日印刷
大正十五年十一月廿五日發行

復興區劃整理委員名鑑
定價二冊一組金拾五圓

東京市本郷區湯島天神町三丁目一番地
著作兼 發行者 岩瀬 治兵衛

東京市本郷區眞砂町三十六番地
印刷者 左手 薫

東京市本郷區眞砂町三十六番地
印刷所 日東印刷株式會社

東京市本所區外手町二十九番地
寫眞製版 原澤製版所

不許
複製

發行所

東京市麴町區有樂町二丁目一番地

日本聯合通信社

電話大手 二〇六七番
四七一〇番

終

